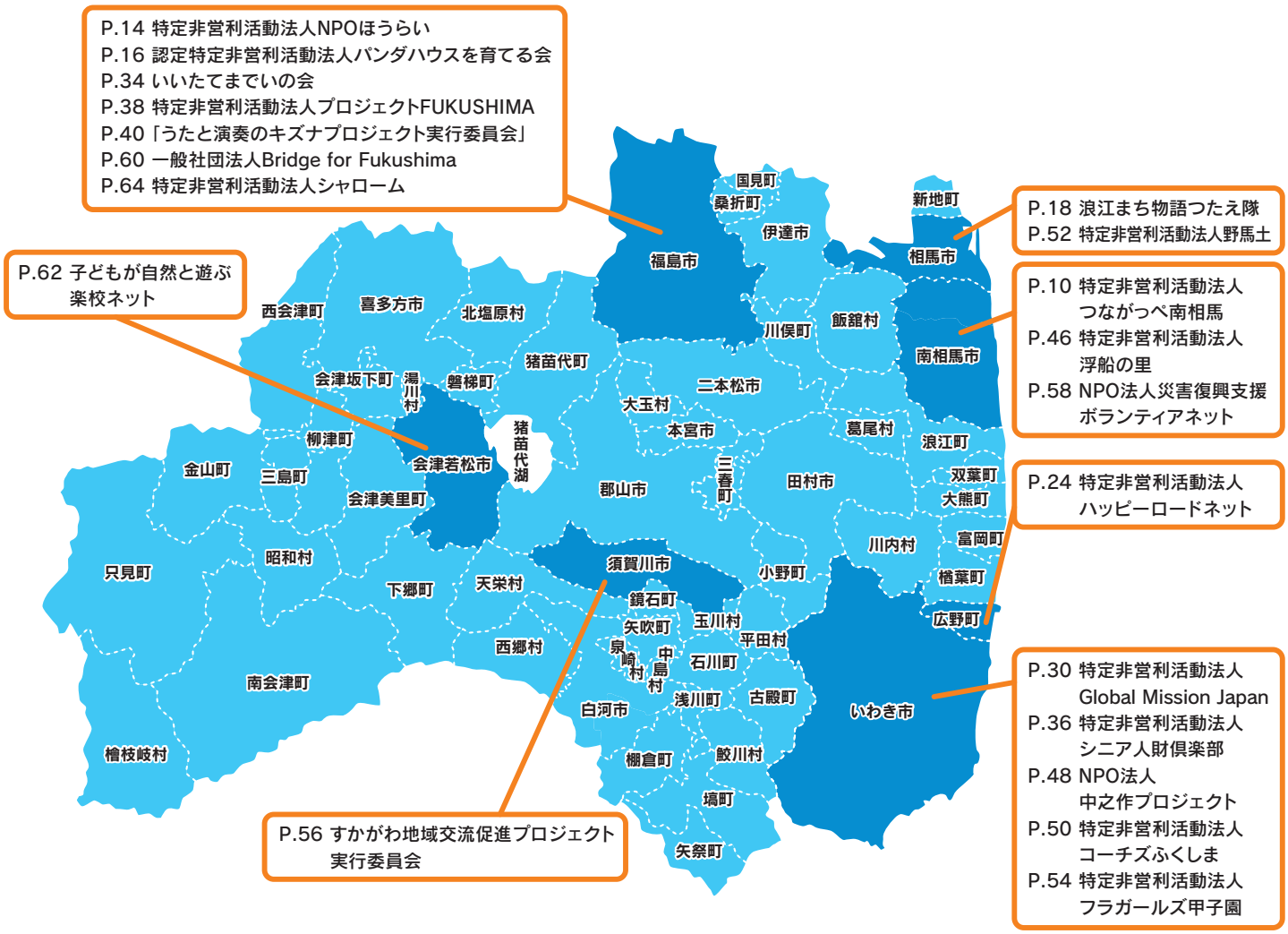
平成27年度 ふるさと・きずな維持・再生支援事業

活動成果報告書

福島県

■ 多くの県内外の団体の皆さまから
ご支援いただきました。
ご協力ありがとうございました。

本事業の採択団体の所在地を表示しております



ふるさと・きずな維持・再生支援事業について「ふくしま復興ステーション」からご覧いただけます。

ふくしま復興ステーション　～復興情報ポータルサイト～

「ふくしま復興ステーション」は、ふくしま復興の現状と取組を“見つけやすく”“分かりやすい”形で世界に発信する福島県公式復興情報ポータルサイトです。

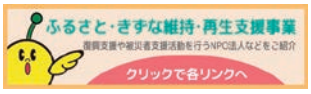
【福島県】http:／／www.pref.fukushima.lg.jp／

▶福島県ホームページよりバナーをクリック！

【ふくしま地域活動団体サポートセンター】http:／／f-saposen.jp／

▶トップページの「ふるさと・きずな維持・再生支援事業」バナーをクリックすると項目が表示されます。

各年度の採択団体の事業内容、活動のようすなどをご覧いただけます。



はじめに

東日本大震災から５年が経過しましたが、福島県では現在も約 10 万人の方々が避難生活を続けており、生活再建における不安の払拭、地域コミュニティの維持・再生、さらには原子力災害による根強い風評、時間の経過に伴う風化など、様々な課題が山積しております。

このため本県では、平成 25 年度から、内閣府の「NPO 等の運営力強化を通じた復興支援事業交付金」を活用して、東日本大震災及びそれに引き続く原子力災害からの復興等に向け復興支援や被災者支援等を行う NPO 法人等による取組の支援を通して、高い運営力を有する NPO 法人等を育成し、持続的な復興や被災者の支援活動を促進するため、「ふるさと・きずな維持・再生支援事業」を実施しております。

この事業により、被災者・避難者の交流サポートや心と体のケア、帰還支援、風評被害の払拭、復興まちづくりなど、それぞれの得意分野を活かした、地域に寄り添ったきめ細かな支援活動などの取組を通じて、人材育成やネットワークの構築などその取組を実施する NPO 法人等自身の運営力強化に資する取組を支援してまいりました。

本冊子は平成 27 年度「ふるさと・きずな維持・再生支援事業」により、復興支援・被災者支援等に取り組まれた 28 団体の活動実績及び成果についてまとめたものです。

今後、これらの活動が、本県を復興へと導く大きな力となり、NPO 法人等をはじめ、行政や企業、地域住民等あらゆる関係者が一体となった取組が広がり、本県のきずなの維持･再生、そして、復興がさらに加速化されることを期待しています。

結びに、より多くの皆様にご覧いただき、地域住民、NPO 法人等、企業、行政関係の皆様に、これからの地域活動、復興支援・被災者支援活動の参考としていただければ幸いです。

本事業の実施にあたり、御協力をいただきました関係者の皆様に心より感謝を申し上げますとともに、皆様のさらなる御活躍を祈念いたします。

目　次

ページ番号	実施団体名 団体所在地/活動場所	事業名 事業概要
P.10	特定非営利活動法人 つながっぺ南相馬 福島県南相馬市 小高区塚原字諏訪原67－3 南相馬市	仮設住宅でのコミュニティサロン活動 (1)仮設住宅内の被災者の居場所の提供、仮設住宅でのきずな維持・健康作り、ふるさとへの帰還や生活再建・自立へ向けて必要な情報提供等の支援を行う。 (2)自立したNPO法人として、継続的に被災者支援やまち興し活動が可能となる様、人材育成や県内外の支援活動団体等とのネットワークの形成・拡大を目指しています。
P.12	東日本大震災・山梨県内避難者と支援者を結ぶ会 山梨県中央市若宮49－7 山梨県	山梨県内避難者支援事業 山梨県内避難者（約700名）の「孤立防止」と「居場所と出番づくり」に寄与する。
P.14	特定非営利活動法人 NPOほうらい 福島県福島市蓬莱町一丁目10番7号 福島市	コミュニティによる認知症・生活習慣病（糖尿病）発症予防・進展抑制プロジェクト 福島県の原発事故による避難地域においては原発災害等による長期にわたる避難生活のストレスや生活環境からくる原因による疾病が増加し、要介護者が急増している。また若者の流出等による家族の離散で、医療福祉機関、自治体、住民とのネットワークが分断されている。本事業は、NPO、自治体、自治組織、住民などの地域資源と福祉・医療関係機関の医療資源が一体となって、高齢者の認知症・生活習慣病（糖尿病）の発症予防・進展抑制に取り組み要介護者の急増を水際で食い止め、医療介護の適正化及び自助による高齢者の健康寿命延伸を図る。
P.16	認定特定非営利活動法人 パンダハウスを育てる会 福島県福島市蓬莱町八丁目15番地1 福島県	共に触れ合い福島で生きる　～手作り品から生まれるきずな～ 住み慣れた土地を離れ、慣れない土地で新しい人と関係を作ることは容易なことではありません。さらに、仕事を辞めざるを得なかったり、好きなことを行う意欲がなくなったりしてしまうことがあれば、自分の役割を失い引きこもってしまうことが懸念されます。そこで、ふるさとから離れて暮らす方と移住先の地元の方が楽しい時間を一緒に過ごすことで新しいつながりが生まれ、また、ふるさとに戻られた方同士が共に過ごすことで、つながりが継続する機会となることを目的として、手芸と版画を行う事業を行いました。作成した品物は、入院中の子どもとその家族にクリスマスに贈らせていただきました。被災して支援を受ける立場から、闘病中の方を応援する立場となることが、生きがいや自分の役割を見出すきっかけになっていただけたらと願っています。

P.18	浪江まち物語つたえ隊 福島県相馬市石上字南蛯沢687－7 福島県・愛知県・東京都・埼玉県・神奈川県	**浪江まち物語　紙芝居およびアニメーション化事業** 3.11の大震災と原子力発電所の災害により多くの浪江町の住民は故郷を追われ、県内外に避難している。自然災害のみであればこの様な広域に避難する事は無かった。家族・故郷の絆を少しでも忘れる事の無く、一日も早い心の復興を出来るようにする事が大切である。原子力発電所の災害により地元を離れざるを得ない人々に何処にいても「故郷は浪江」と思えるよう、昔話と3.11以降の記憶を風化させない様にする。平成24年4月に仮設住宅での紙芝居をきっかけにつながりができた広島の「まち物語制作委員会」の支援の下で、故郷の昔話と、3.11以降の実話を紙芝居とアニメとして制作し上演会を県内外で多数行った。
P.20	NPO法人 団塊のノーブレス・オブリージュ 東京都新宿区西早稲田1－4－14 東京都（浪江町）	**請戸小学校津波避難物語の制作と広報支援事業** この事業は今年度2年目となる。2年前の3月、津波の傷跡がまだ生々しく残っていた請戸小学校を訪問した。副町長さん（当時）から子どもが全員無事に避難できたこと及びこの話を風化させないでとの言葉がきっかけとなり、昨年度は絵本を制作した。5,000部印刷したが、絵本は1か月余りで全て配布できた。今年度はこの話を紙芝居の形に表し福島県を始め7か所で上演した。
P.22	特定非営利活動法人 ちば市民活動・ 市民事業サポートクラブ 千葉県千葉市 美浜区真砂5－21－12 千葉県	**福島への思いを大事に、千葉での暮らしを支える プロジェクト2015** 福島県からの千葉県内への避難者数は約3,100名となっています。仕事、住居、経済的なこと、介護、子育て等、被災者の課題は多様で、ひとりひとりの状況の沿った支援が必要とされている。特に、高齢者は周囲との交流がないまま孤立したり、福祉的なサービスを受けられずに暮らしている状況が見受けられる。震災や被災者への市民の関心は薄れつつあり、理解と関心を促すことが必要と考える。
P.24	特定非営利活動法人 ハッピーロードネット 福島県双葉郡 広野町広洋台二丁目1－5 福島県浜通り	**ふくしま浜街道・ふるさと再生ネットワーク形成事業** 東日本大震災に伴う東京電力第一原子力発電所の事故により、双葉郡は避難指示区域が設定され、現在でも多くの住民の方々は避難を余儀なくされています。このような中で、仮設住宅等で生活する避難住民や次世代を担う商工業者のスタッフ等の協力を頂き、桜の植樹事業（ふくしま浜街道・桜プロジェクト）を実施する事により、浜通り地方の復興再生への機運を高め、帰還した住民の方々、双葉郡を離れている住民の方々が、夢と希望を持ち健康で生きがいのある生活を取り戻すことをめざしています。そして地域再生の核となる人材を育成し、併せて、風評被害の払拭に向け、全国からの植樹のボランティアを募集して浜通り復興支援ネットワークを形成するものです。さらには、福島浜通りの未来を担う子供たちが、住民の一人として主体的に地域づくり活動に関わっていける環境をつくり、「愛するふるさとの復興」を作り上げていく礎となるよう活動を進めています。
P.26	特定非営利活動法人 フードバンク山形 山形県米沢市中田町779－1 山形県	**食と心の支えあいプロジェクト** 既存コミュニティーへの参加が困難となっている避難者へ、新たなコミュティー作りを促し共に問題に向き合う避難者間関係を作ること。そして、フードバンクシステムを用いて避難者自らボランティアなどの活動に主体的に参加してもらい共助の仕組みの基盤作りと問題の早期発見を目指す。

P.28	特定非営利活動法人 おぢや元気プロジェクト	「心の駅」孤立防止と心のケア事業
	新潟県小千谷市本町1－4－16	傾聴に努めみなさまの辛い思いが少しでも軽くなるように。
	いわき市・南相馬市	
P.30	特定非営利活動法人 Global Mission Japan	「ふくしまと世界の架け橋」 総合ボランティアセンターの運営
	福島県いわき市平字尼子町 2番地の7	多くの支援団体が撤退を余儀なくされているなか、福島県内外への避難者は十二万人を超し、いわき市内の二万四千人の原子力事故避難者はいまだに支援を求めている状況です。被災地の細分化した課題を踏まえ、長期的視野に立った支援活動が求められています。心ある国内外からのボランティアの受け皿として、かつ最前線拠点としての役割を果たします。一人ひとりの心の支えとなる日常的かつ密着した活動を通して、被災者の方々を後押しします。また幅広く各関連機関と協働活動をすることによりノウハウの蓄積を図り、これからの社会課題にも対応できる市民活動を目指します。
	福島県	
P.32	震災支援ネットワーク埼玉	専門家および地域行政との連携により、長期避難者の生活再建を支援する事業
	埼玉県さいたま市 浦和区高砂4－3－1－303	1.昨年度の実施調査では、避難者の約2割が福島県への帰還を、約3割が県外移住を、約5割は問題が複雑化し決めかねている状況にある事が分かりました。生活基盤の安定・再建へ向けた問題解決を目指します。 2.支援者の、被災者とのコミュニケーションからの問題整理能力、関連する地域社会資源に繋げる柔軟さ、最新の動向を把握しての対人支援、問題解決スキル等の支援能力の底上げを図ります。
	埼玉県	
P.34	いいたてまでいの会	いいたてミュージアム －までいの未来へ記憶と物語プロジェクト－2015
	福島県福島市荒町4－7 県庁南再エネビル2階	いいたてミュージアムとは、東京電力福島第一原子力発電所事故により全村避難となった飯舘村のこと、飯舘村に起こったことを福島県内外に広く発信し、未来の世代へも伝えていこうというプロジェクトです。村民のみなさんのお宅へお伺いし、みなさんにとっての「古いモノ」「大事なモノ」「歴史的なモノ」を見せていただき、それにまつわるお話を集めてきました。「モノ」にまつわるお話から見えてきたのは震災・原発事故前の豊かな村の姿でした。昨年、初めての県外巡回展を行った東京・神戸・京都に引き続き、今年度は静岡県で巡回展を開催します。ご覧いただくみなさまに「モノ」が語る力から、村の姿をお伝えできればと思います。
	福島市（飯舘村）	

P.36	特定非営利活動法人 シニア人財倶楽部 福島県いわき市 郷ケ丘2丁目54－1 いわき市	**学び・体験・交流による被災者の生きがいづくり事業** 未だ市内の各仮設住宅に居住する住民にとっては、住居の質を含めた閉鎖的な環境、家族や友人との離散、先行き不透明な入居期間など、慣れない土地での避難生活が心身に悪影響を及ぼしている。特に交通手段を持たない高齢者にあっては、その影響が顕著である。弊法人はこれら各仮設住宅を巡回して生鮮食料品等の移動販売事業を実施しているが、利用者達から「一人暮らしで寂しい」「閉塞的な仮設住宅エリアから出たい」「日々コミュニケーション不足で寂しい」という声が多く聞かれる。そこで、一時的にでも彼らの精神的な解放を図るイベント等を実施し、自立を促し、生きがいづくりとなる機会を提供するとともに、仮設住宅居住者間だけでなく都市部及び農村部居住者との交流による相互コミュニケーションを通して、新たなコミュニティづくりに貢献することを目的とする。また、過疎化が進む山間部の三和町においては、交流人口増による賑わい創出、地域活性化を目的とする。
P.38	特定非営利活動法人 プロジェクトFUKUSHIMA 福島県福島市 飯坂町中野字山岸7－1 福島県	**プロジェクトFUKUSHIMA!の活動** 福島から文化を発信していく、福島をポジティブな場所に変えていく、ということを目的に、震災後の福島でフェスティバルを中心に様々な活動を続けてきました。時間経過と共に複雑化・進化する福島を巡る困難な状況の中でこそ、現実とどう向き合うか、その視点と方向性を人々に示唆する力を秘める音楽や詩やアートなど「文化」の力が必要だと私たちは考えています。盆踊りや福島大風呂敷、インターネット放送などのプロジェクトを通して、原発災害を契機に生まれた様々な分断や対立などの問題に継続的に向き合い、立場や考えの異なる人々が集い、語らう場を作り、福島発の文化を発信していきます。そして福島で希望を持って生きていく原動力となることを目指します。
P.40	「うたと演奏のキズナプロジェクト実行委員会」 福島県福島市入江町12－3 福島市	**うたと演奏のキズナプロジェクト** 福島の子ども達は、原発事故により多くのストレスを抱えている。特に多感な中高生に対するケアは教育の現場において多くの課題を残している。今回の事業は、中高生の心のケアを目的とし、中高生が対象の作詞作曲プロジェクトを行う。曲作りを通し、力を合わせて一つの事を成し遂げる達成感や、全国へ配信する喜びを体験できるプロジェクトであり、福島に生まれ育って良かったと誇りを持って社会に羽ばたける人材を育成する。

P.42	山形避難者母の会 山形県山形市幸町7－32 山形県	**避難者向け女性人材バンクネットワーク形成と講師養成講座の開設** 原子力災害により主に福島県中通り地区から山形県山形市周辺に避難した自主避難者たちの多くは仕事のある父親を福島に残し母子のみで避難している。その多くは小さい子どもを抱えているが夫や親のサポートもなく、福島と山形とで二重生活をしているため経済的に苦しい。避難が長期化する中第二子や三子を出産した家庭もあり、小さい子がいても働ける環境が望まれている。山形県の避難者4204名のうち（平成27年5月現在）1384名が山形市におり、その半数は母子避難などの家族の一部で避難している方である。平成26年度10月に山形県が実施した避難者アンケートによれば、避難生活で最も不安に感じているのが生活資金のことであり（63.7%）、現在無職で就職を望んでいる方の51.0%がパートタイム就労を望んでいる。当団体の会員からも、「子どもが帰ってくるまでの時間の仕事を探してほしい」などの意見が多くある。山形県内に暮らす自主避難者・母子避難者の経済的負担を軽減するための就労支援として、子どもがいても働ける環境作りとその資格取得をサポート。福島帰還後のアフターフォローも視野に入れる。
P.44	特定非営利活動法人 医療ネットワーク支援センター 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3－12－1－302 東京都	**「県外避難者の健康と生活支援および支援者の活動強化事業」** 東京の県外避難者（6,973人:復興庁全国避難者数H28.1.14現在）支援には、避難者の課題として、避難生活の歳月経過に伴う高齢化等により『健康』や今後の『住まい』の不安があり、支援者側の課題としては、支援の在り方の変化に柔軟な対応が必要な一方で、震災の風化により支援が減少傾向にあります。そこで、当団体の医療・健康分野の知見を生かし、避難者が不安への対応力を得て、自己判断や自立のきっかけを得ること、また、支援者間の情報共有、活動力強化を目的に本事業を実施しました。
P.46	特定非営利活動法人 浮船の里 福島県南相馬市 小高区大井字深町76番地 南相馬市	**小高区住民の絆コミュニティ構築事業** 南相馬市小高住民の繋がりを広げ、避難者コミュニティの再構築を図ると共に、住民自らが一歩進めるように促すことを目的として、小高区で気軽に集まれるコミュニティスペースの運営を軸に小高住民と県外の支援者が話し合いを行うワークショップの開催と住民主体による新規プロジェクトを実行します。また、小高区の伝統的に受けつがれてきた養蚕、そして手織の製品をつくる上での多くの作業工程をつくりだし、「生きがい」づくり「居場所」づくりを目指します。
P.48	NPO法人 中之作プロジェクト 福島県いわき市中之作字川岸10 いわき市	**中之作地域　町並み保存活動** いわき市中之作は、東日本大震災と津波による被害を受けましたが、地形など様々な要因により奇跡的に多くの建物が残された港町です。しかし、少子化・高齢化・核家族化・過疎化などの社会問題により、港町の風景をつくる貴重な建物は修復されずに次々と壊されてしまいました。震災に耐えた貴重な港町の風景を次の世代に伝えるため、地域コミュニティの再構築と、地域に若い移住者を増やす取り組みが地域課題です。

P.50	特定非営利活動法人 コーチズふくしま 福島県いわき市 平谷川瀬字明治町83－1 いわき市	仮設住宅高齢者住民、並びに地元高齢者住民に対する ボランティア介護予防体操教室の実施事業 急速な高齢化の進行により介護力の低下が起きている現在。東日本大震災によりいわき市では、被災市町村からの人口の移転に伴い、高齢者が一段と増加しました。介護予防体操教室をいわき市内の介護事業所・仮設住宅・公民館で開催して、高齢者の体力や筋力の向上により、高齢者の健康や高いQOLを維持しながら、介護予防に重点を置き、家族や市町村の介護の負担が少ない社会を目指します。
P.52	特定非営利活動法人野馬土 福島県相馬市石上字南白髭320 相馬市	6号線の既設フリースペース(カフェ野馬土)を利用した 地域活性化事業 震災から4年、避難先で新生活を始めた人がいる一方、将来に迷い仮設を出られない人もいる。暮らしのカタチは様々だが、安心して暮らせるコミュニティを今後どうやって作っていくかが被災者の共通した課題である。野馬土は、カフェ野馬土を誰もが集い交流できる場として提供して人のつながりを醸成し、被災者を含む地域の人々が安心して暮らせるコミュニティづくりをサポートしていく。また、地域づくりを推進する人材の育成、世界へ向けての情報発信も並行して取り組む。
P.54	特定非営利活動法人 フラガールズ甲子園 福島県いわき市平白土字八ッ坂36－2 いわき市	フラガールのふるさといわき推進事業 第1弾「いわきフラウィーク」 第2弾「全国学生フラフェスティバル2016inいわき」 1960年からのエネルギー革命で地元いわきの基幹産業(石炭産業)は大きな方向転換を迫られ、観光事業(ハワイのフラを題材にした娯楽場)へと方向転換してきました。それから50年の年月を経てようやく根付いた観光産業も、2011年の東日本大震災に伴う原子力災害で大きなダメージを受けました。しかし、先人たちが苦労して築き上げたいわき独自のフラ文化を、日本のフラの聖地として位置付け、国内はもとより環太平洋諸国とのつながりを密にして活動することにより、新たな街作りの柱としたいと考えています。高校生によるフラの全国大会「フラガール甲子園」の週間をフラウィークと命名して、多くの市民が気軽に参加できる複合型事業を展開していわきのフラ文化が外部に発信され、市民の心の支えになることを目指します。
P.56	すかがわ地域交流促進 プロジェクト実行委員会 福島県須賀川市東町59－25 須賀川市	すかがわ地域交流促進プロジェクト 須賀川市の中心市街地には、平成19年にオープンした須賀川市総合福祉センターがあった。しかし、東日本大震災によりこのセンターも被害を受け、使用不可となった。かつてセンターには市役所機能の一部や社会福祉協議会に加えて、休憩所、イベントスペース、コンビニエンスストア、図書館、多目的室、乳幼児向けの遊び場などが入り市民に幅広く活用され、市街地の中心部において多くの交流を生んでいた。商店街に立ち並ぶ店舗の相次ぐ休業や閉店などもあり、震災以降人通りが少なくなりつつある中心市街地に、震災で失われたセンターに代わり、市民が交流するための拠点をもう一度整備する事で、再び多くの人を招き入れる事と、地元の多くの団体が連携して活動することで、地域活性化に向けた今後の取り組みへのスキルアップを目的として事業を行うものである。

P.58	NPO法人 災害復興支援ボランティアネット	南相馬市の未整備地域の環境整備と 帰還者及び復興住宅への移転支援事業
	福島県南相馬市小高区本町2－57	当団体に依頼する被災者は大部分が一人暮らしや高齢者で2反3反以上の草刈り、大木の伐採など自分達では到底出来ない。行政では対応できない部分をボランティアが行う必要がある。
	南相馬市	
P.60	一般社団法人 Bridge for Fukushima	NPOと民間企業による「協働」地域復興事業
	福島県福島市五月町2－22	本事業は、復興課題解決に取組むNPOと企業のマッチングによって課題解決のプラットフォームを作ります。震災後、本県では300のNPOが設立されましたが、人材・資金等の不足から運営基盤が脆弱で組織強化が必要です。さらに、長期化し複雑になった復興課題に対して多様かつ専門的なアプローチが求められています。NPOと企業がお互いのリソースを用いて協働することで課題解決が加速します。この持続可能なプラットフォームを目指します。より協働を進めるため、NPOのニーズの明確化が求められています。企業と協働できるNPOを増やす試みとして、今年度はNPOの事業・組織課題解決支援に取り組みます。さらに、事業評価を取り入れた協働サポートによって効果的な協働事業を生み出します。
	福島県	
P.62	子どもが自然と遊ぶ楽校ネット	子ども支援団体組織力強化を通じた野外活動プロジェクト
	福島県会津若松市栄町2－14 レオクラブガーデンスクエア5階	放射能被害の影響により、外で遊ぶことができなかったふくしまの子どもたちが、学校外の学びの場で自然体験等を通じて他者との協調性や学びを身につけるために、NPO法人10団体（今年度2団体が追加）で構成する「子どもが自然と遊ぶ楽校ネット」が本事業を通じて10団体協働での「組織力の強化」、「公教育との連携」、「事業実施モニタリング」を行う事で、事業のプログラムの質と、子ども支援力の向上を図る。また、次年度以降協議会として事業が継続できるようなファンドレイズを行いながら、学校と民間教育の連携のもとに、一貫した子どもの支援の民間での体制をつくる事ができる
	福島県	
P.64	特定非営利活動法人シャローム	社会からの孤立を防ぐ生きがいコミュニティサロン事業
	福島県福島市松川町東原17－3	バラバラに点在するコミュニティの孤立化を防ぐため「生きがい」づくりのためのサロン運営事業を行う。仮設住宅等で引きこもりになってしまう高齢者がおり、特に男性の引きこもりが多いという課題がある。有事の際や普段の生活の中でお互いに見守る役割を持つセーフティネットを構築する。その手段として、仮設住宅等に講師を派遣し、気軽に参加出来るパソコン講座を中心とした様々なサロン事業を開催する。その中で次世代のリーダー的人材の育成も目的としサロン運営を行う。
	福島市	

活動団体紹介

仮設住宅でのコミュニティサロン活動

特定非営利活動法人 つながっぺ南相馬

活動地域	南相馬市
活動分野	保健医療福祉、まちづくり

実施団体概要

〒979-2104 福島県南相馬市小高区塚原字諏訪原67-3
TEL・FAX 0244-26-4760
E-mail konno@white.plala.or.jp
URL http://www14.plala.or.jp/yamaki_farm/

事業目的・課題・背景

1. 事業目的

(1)仮設住宅内の被災者の居場所の提供、仮設住宅でのきづな維持・健康作り、ふるさとへの帰還や生活再建・自立へ向けて必要な情報提供等の支援を行う。

(2)自立したNPO法人として、継続的に被災者支援やまち興し活動が可能となる様、人材育成や県内外の支援活動団体等とのネットワークの形成・拡大を目指しています。

2. 課題と背景

主に南相馬市鹿島区内3ヶ所の仮設住宅集会所で、南相馬市及び双葉郡内の被災者合計338戸を対象にコミュニティサロンを開設し支援活動を行なっているが、市や県が整備する災害公営住宅への移転、自力での生活再建で仮設住宅を離れる人、また4月に予定されている避難指示解除後ふるさとへの帰還を目指し準備を始めるグループと、将来を決められない高齢者に徐々にグループ分けが出来つつある。

主な活動実績

2015年8月9日鹿島区塚合仮設住宅集会所にて、東京農工大藍染めグループと相馬農業高校生達が連携し、地元鹿島区の藍栽培グループが育てた藍を使用し、約20人の被災者と一緒に藍染めワークショップを開きました。藍染めの簡単な説明の後、絹や木綿の生地を使用しそれぞれ藍染めを行い、できあがった世界に一つしか無い作品を見せ合いました。

主な活動実績

2015年11月10～13日大阪体育大学サンライズキャンプとして引率教員＋学生10名が当法人が運営する3ヶ所のサロンでの被災者交流や20km圏内で被災時の状況が今も残っている小高区で被災地ツアーを行いました。写真は11月13日鹿島区千倉仮設住宅集会所の住民との交流会中の集合写真です。

3ヶ所のサロンでは、杖をついたり手押し車を利用する高齢者が多くなる中、被災住民の生活不活発対策と健康寿命を少しでも延ばす活動の一環として、毎月2回笑いヨガを用いた健康体操教室を開き効果を上げています。写真は西町第一仮設住宅集会所での体操中の一コマです。

事業の成果

人材育成

本事業を通じて、これまで実施してきたカルチャー教室や、健康体操教室を通して団体スタッフのスキルが向上し、教えられる側から自ら教材等も準備し教える側に変貌を遂げつつあります。また米粉パンの提供も行っておりましたが、単純な米粉パンから、ブドウパンやチーズパン等レパートリーも広がり、一部ですが仮設住宅の住民の求めに応じて実費での米粉パンの提供ができる様になってきております。

ネットワーク形成

4～12月まで本事業を通じて、市内外の個人・NPO団体、高校や大学等がサロンを訪れ何らかの活動した回数は3ヶ所合計で292回に達しており、大きく情報共有や連携の輪が広がり、活動に関するノウハウ取得もできました。加えて住民主体である自治会の独自活動も90回を数え、住民主体での草刈り清掃、花見、忘年会等季節に応じた活動が展開できる様になってきております。

山梨県内避難者支援事業

東日本大震災・山梨県内避難者と支援者を結ぶ会

活動地域	山梨県
活動分野	保健医療福祉、災害救援、子どもの健全育成、連絡助言援助

実施団体概要

〒409-3803 山梨県中央市若宮49-7
TEL 055-274-7722 FAX 055-274-7666
E-mail fujihara@ycca.jp
URL http://www.ycca.jp/musubukai/

事業目的・課題・背景

事業目的

山梨県内避難者（約700名）の「孤立防止」と「居場所と出番づくり」に寄与する

課題

将来展望が開けないことへの不安

安定した生活（普通の生活）が構築できていない

背景

帰還を待ち望んでいるが帰れない

母子避難など二重生活が続いている

避難地域での役割が見つからない

「みなし仮設扱い」終了後の住宅確保への不安

主な活動実績

地域別交流サロンの開催

6月23日　フレンチ・ブルドッグの会①（避難者9名参加）
7月19日　交流サロンin甲府市（避難者6名参加）
7月26日　交流サロンin富士五湖（避難者4名参加）
8月 2日　交流サロンin北杜市（避難者5名参加）
8月 9日　交流サロンin笛吹市（避難者5名参加）
8月26日　交流サロンin甲州市（避難者3名参加）
11月 3日　フレンチ・ブルドッグの会⑤（避難者14名参加）
11月14日　富岡タウンミーティングin甲府（避難者4名参加）
1月24日　フレンチ・ブルドッグの会⑦（避難者16名参加）

主な活動実績

第6回避難者交流会

10月17日、全県避難者を対象に第6回避難者交流会を開催しました。（避難者96名・支援者105名が参加）就労・法律・健康・税務・賠償・生活・移住等の相談コーナーの開設、子供コーナーやアトラクションを楽しみながらひと時を過ごしました。今回は、福島県および郡山市・いわき市・飯舘村・浪江町からも参加していただき、情報交換の機会となりました。帰りには、支援物資をお土産に持ち帰っていただきました。

支援団体のイベント情報提供と参加促進

7月18日　川手フルーツ農園「桃狩り」（避難者25名参加）
7月22日　劇団カッパ座公演「みにくいアヒルの子」（避難者16名参加）
10月13日　東京ヴォードヴィルショー「パパノデモクラシー」（避難者16名参加）
2月21日　わらび座公演「風の又三郎」（避難者32名参加）
2月27日　「親子でベリーダンス」（避難者20名参加）

事業の成果

人材育成

・2月13日
東京ボランタリーフォーラム「東日本大震災から5年」そしてこれからに参加。他団体の活動情報を収集しながら、今後の活動の参考とした。

・3月3日
広域避難者ミーティングin東京に参加。「結ぶ会」の活動を紹介させていただきながら、東京の避難者への平成29年4月以降の居住先選定の参考としていただいた。

以上の活動を通じ、スタッフの人脈形成および支援ノウハウの蓄積が出来た。

ネットワーク形成

・構成団体　5団体
・協力団体　民間16団体自治体22団体

のネットワークを維持しながら、日常の支援活動の推進や相談等へ対応している。新たに、「とみおか子ども未来ネットワーク」との連携が実を結び、11月14日に「とみおかタウンミーティングin甲府」を開催した。これまで把握できなかった2世帯の皆様に登録していただいた。

特定非営利活動法人 NPOほうらい

活動地域	福島市
活動分野	保健医療福祉、まちづくり

実施団体概要

〒960-8157　福島県福島市蓬莱町一丁目10番7号
TEL 024-549-6951　FAX 024-549-3960
E-mail qqsy6xpd@ever.ocn.ne.jp

事業目的・課題・背景

福島県の原発事故による避難地域においては、原発災害等による長期にわたる避難生活のストレスや生活環境が原因の疾病が増加し、要介護者が急増している。また若者の流出等による家族の離散で、医療福祉機関、自治体、住民とのネットワークが分断されている。本事業は、NPO、自治体、自治組織、住民などの地域資源と福祉・医療関係機関の医療資源が一体となって、高齢者の認知症・生活習慣病（糖尿病）の発症予防・進展抑制に取り組み要介護者の急増を水際で食い止め、医療介護の適正化及び自助による高齢者の健康寿命延伸を図る。

主な活動実績

認知機能低下予防事業

飯舘村みなし及び応急仮設住民の高齢者に対して、村及び飯舘村社協・仮設自治会等と連携し、集会所等において歌と音楽を使った運動プログラムとシナプソロジープログラムを融合した認知機能低下予防プログラムの指導等を実施。

実施時期：平成27年6月から平成28年3月
実施場所：応急仮設集会所及び公共施設
実施回数：月2回　合計24回
参加人員：288名
地域の担い手としての、音楽健康指導員講習4回、10月2回、11月2回実施、6名資格取得

主な活動実績

生活習慣病対策及び認知症対策プログラムとしてのポールウォーキング及び健康食の提供を実施。

ポールウォーキングに関しては、理学療法士及びNPOほうらいのトレーナーの指導のもと、ほうらいフィットネスを拠点に周辺3キロコースで実施、参加人数65名。

健康食の提供は、阿武隈茶屋において、月に1回共同台所を設置、講師を招いて伝統食の継承及び健康レシピ開発を実施。6月から3月まで第2水曜日計8回実施、参加人数102名。

当NPOのフィットネスでの生活習慣病予防・福島県立医科大学及び福島県理学療法士会監修のプログラムによるサーキットトレーニングを実施。1ラウンド45分。

毎週日曜日ほうらいフィットネス解放。

午前9時30分から午後4時まで、飯舘村社会福祉協議会を通じて利用券を配布し、実施回数は、6月4回、7月4回、8月5回、9月4回、10月4回、11月5回、12月3回、1月4回、2月4回、3月4回、合計41回実施し、参加人数はのべ287名。

事業の成果

人材育成

音楽健康指導2級資格取得者6名

認知機能低下予防プログラム事業において、担い手を育成。

音楽健康教室において、認知機能簡易検査実施により、認知症予備軍の早期発見のシステム作りの必要性について、行政と社協と新たな担い手で共有できた。検査の結果、運動前と運動後に具体的改善が見ることができた。

共同台所設置により、伝統食を生かした健康レシピ（減塩低カロリー）を福島医大や県栄養士協会の監修のもと制作したことにより、地域での健康な食の担い手を育成した。

ネットワーク形成

- 飯舘村社会福祉協議会
- 仮設自治会（みなし及び応急仮設）
- 飯舘村
- 福島県立医科大学
- 福島県理学療法士会
- 福島県栄養士協会との
  ネットワーク形成

共に触れ合い福島で生きる　～手作り品から生まれるきずな～

認定特定非営利活動法人 パンダハウスを育てる会

活動地域	福島県
活動分野	保健医療福祉

実施団体概要

〒960-8157　福島県福島市蓬莱町八丁目15番地1
TEL・FAX 024-548-3711
E-mail　office@pandahouse.org
URL　http:// pandahouse.org

事業目的・課題・背景

住み慣れた土地を離れ、慣れない土地で新しい人と関係を作ることは容易なことではありません。さらに、仕事を辞めざるを得なかったり、好きなことを行う意欲がなくなったりしてしまうことがあれば、自分の役割を失い引きこもってしまうことが懸念されます。そこで、ふるさとから離れて暮らす方と移住先の地元の方が楽しい時間を一緒に過ごすことで新しいつながりが生まれ、また、ふるさとに戻られた方同士が共に過ごすことで、つながりが継続する機会となることを目的として、手芸と版画を行う事業を行いました。

作成した品物は、入院中の子どもとその家族にクリスマスに贈らせていただきました。被災して支援を受ける立場から、闘病中の方を応援する立場となることが、生きがいや自分の役割を見出すきっかけになっていただけたらと願っています。

主な活動実績

富岡町さくらサロン（福島市）

福島市やその近郊に住む富岡町の方と当団体のボランティアの方が一緒に、絞りのバッグ、巾着、サンタクロースのマスコット、版画を作成しました。8月21日から12月3日の間に12回開催し、延べ157名の方が参加しました。

同じ地域で暮らし、同じ世代であったこともあり、共通の話題で笑い合ったり、お昼ご飯やお菓子を持ち寄ったりして交流をもちました。また、版画では干支である「さる」を彫り、色付けしてハガキに刷りました。男性の参加もあり、男性ボランティアの方と男同士で昔を懐かしみながら思い出話に花が咲きました。

主な活動実績

川内村コミュニティセンター、川内村第5区集会所（川内村）

避難先から川内村に戻った方と、絞りのバッグ、巾着、サンタクロースのマスコットを一緒に作りました。9月13日から12月6日までの間に4回開催し、延べ90名の方が参加しました。参加者の方からは「震災によって今まで受けてきた支援の恩返しがしたい」、「作ったものが入院中の子どもたちに届くのが嬉しい」との言葉がありました。

川内村社会福祉協議会の皆さまにご尽力いただいたお陰で多くの方が参加してくださり、皆で顔を合わせておしゃべりする交流の場となりました。

川内村仮設（郡山市）

郡山市の仮設住宅に住まれている方と、巾着、サンタクロースのマスコット作り、版画を行いました。また、入院中の子どもたちへのプレゼントとして新たな提案をいただき、ねこやくまのクリップを作成していただきました。10月6日～12月1日までに3回開催し、延べ56名の方が参加しました。

参加者からは「一人暮らしをしているが、皆と会う機会になりました。」との声が聞かれ、和やかな雰囲気で楽しい時間を過ごしました。

事業の成果

人材育成

- 新しい人とのつながりができることが、大きな力になることを改めて認識し、ボランティアの活性化と、ボランティアコーディネートの方法を学ぶことができました。
- 協力者として大学生に携わってもらったことは、若い世代に震災のことを知ってもらい震災を風化させないこと、参加者との触れ合いを通じて「人を大切にする真心」を感じてもらえたように思います。

ネットワーク形成

- 川内村社会福祉協議会の方から、現在の避難状況や地元に戻ってきた現状について共有させていただき、これからの支援のあり方について考える機会となりました。
- 当団体が支援したというよりも、逆に、私たちを笑顔で迎え入れてくださり、大変なときでも誰かのために支えたいという想いが伝わってきて、やさしさと強さを教えていただきました。

浪江まち物語　紙芝居およびアニメーション化事業

浪江まち物語つたえ隊

活動地域	福島県･愛知県･東京都･埼玉県･神奈川県
活動分野	文化芸術スポーツ、環境保全、人権平和

実施団体概要

〒976-0006　福島県相馬市石上字南蛯沢687-7
TEL・FAX 0244-32-0270
E-mail　ozawa-yo-@mountei.ocn.ne.jp

事業目的・課題・背景

3.11の大震災と原子力発電所の災害により多くの浪江町の住民は故郷を追われ、県内外に避難している。自然災害のみであればこの様な広域に避難する事は無かった。家族・故郷の絆を少しでも忘れる事の無く、一日も早い心の復興を出来るようにする事が大切である。また原子力発電所の災害により地元を離れざるを得ない人々に何処にいても「故郷は浪江」と思えるよう、昔話と3.11以降の記憶を風化させない様にする。

平成24年4月の仮設住宅での紙芝居をきっかけにつながりができた広島の「まち物語制作委員会」の支援の下で、故郷の昔話と、3.11以降の実話を紙芝居とアニメとして制作し上演会を県内外で多数行った。

主な活動実績

3.11以降の浪江町で起きた事実をもとにした物語を紙芝居にして後世に残す事と、紙芝居をアニメーション化し、DVDを制作する。

今年度の主目標が、3.11以後の物語をアニメ化する。各地で上演会を開き、視聴者の意見を聞き作品名を決めた。

「見えない雲の下で」「奇跡の請戸小学校避難物語」「眠り猫の独り言」「無念」を上演。3.11自然災害と原発事故の違いが歴然とした物語を後世に残すためアニメーションとして制作完了。

3月5日　福島テルサで試写会。

平成27年10月17日　東京国際フォーラム
ふくしま大交流フェアに参加
「奇跡の請戸小学校避難物語」を上演

主な活動実績

桑折町の「イコーゼ」児童クラブの
子供と桑折・浪江住民を対象に上演会

小中学校における情操教育として紙芝居の上演の依頼があり県外でも上演

①1月15日桑折町醸芳小学校の出前スクールで
「請戸小学校…」「眠り猫の独り言」
②6月16日愛知県岡崎市常磐南小学校
「眠り猫の独り言」「請戸小学校…」
③10月27日福島大学（行政政策学類）出前授業。
3.11以後の「見えない雲の下で」「無念」他PPを使用し、
「浪江町の復旧・復興に思うこと」を講話
④3.11を風化させないための講話依頼が多数あり震災後の紙芝居を主に上演
7月広島　8月相馬市・磐梯熱海
10月福島大学　11月愛知県　等

DVDとPPを使用
「浪江町の現況」の報告

主な活動先

①原発事故避難者の仮設住宅
②桑折町の学校・福祉施設
③伊達市保原町を中心に福祉施設など
昔話と震災後の実話の紙芝居を上演
④県外からの要請先
広島・愛知・東京・神奈川・埼玉・宮城県等の団体では、震災後の実話のDVDとPPで、「浪江町の現況」の報告
⑤建築家集団・日本住宅会議など
4月～1月の上演会74回　延観客3000名
⑥大学・出前講座・出前スクール等

事業の成果

人材育成

①地元の昔話は、地元の為に大切に残す。
②3.11以降に出来た物語は、後世に残す事が大切である事を語り部の方が十分理解して活動をしている。
③避難者「浪江町」と避難者受入れ自治体との繋がりが紙芝居を通じて出来たのが、心の復興である。

ネットワーク形成

福島県の浜通り、中通りを主に、広島の「まち物語制作委員会」をメインに多くの活動団体と面識を持つことが出来た。伝達の手段を色々と学ぶことが出来た。また全国各地からの問い合わせがあり、震災後の作品を上演することで、福島の風化防止に少しでも役立っているかと感じている。

請戸小学校津波避難物語の制作と広報支援事業

NPO法人 団塊のノーブレス・オブリージュ

活動地域	東京都（浪江町）
活動分野	まちづくり、災害救援、国際協力

実施団体概要

〒169-0051　東京都新宿区西早稲田1-4-14
ラウンジHello内
TEL 090-5798-8393
E-mail uchida@dankai.jp
URL　http://dankai.jp

事業目的・課題・背景

この事業は今年度2年目となる。

2年前の3月、津波の傷跡がまだ生々しく残っていた請戸小学校を訪問した。副町長さん（当時）から子どもが全員無事に避難できたこと及びこの話を風化させないでとの言葉がきっかけとなり、昨年度は絵本を制作した。5,000部印刷したが、絵本は1か月余りで全て配布できた。

今年度はこの話を紙芝居の形に表し福島県を始め7か所で上演した。

主な活動実績

1.　浪江町請戸小学校訪問　　平成26年3月

請戸小の講堂は卒業式の横断幕を掲げたまま実行される事はなかった。床は津波の被害により歪んでいる。

2.　絵本“うけどしょう物語-おおひら山をこえて-”を制作した。　　平成27年3月

“地震の後には津波がやってくる”との言い伝えがあり、子供たちは先生の言いつけを守り、大平山に向け一目散に避難した。大平山への入り口が判らなかったが、龍太君の機転で、全員逃延びる事ができた。

朝日新聞や毎日新聞に紹介して頂いたお蔭で5,000部を1か月余りで配布する事ができた。

主な活動実績

3.　紙芝居の上演

紙芝居の上演を7回実施した。

平成27年8月　　牧之原上演（静岡県牧之原市）
平成27年9月　　早稲田地球感謝祭上演（東京都新宿区）
平成27年10月　　住吉町あけぼのばし商店会上演（新宿区）
平成27年12月　　郡山リハーサル（福島県郡山市）
平成28年2月　　郡山上演（福島県郡山市）
平成28年3月　　阿佐ヶ谷上演（東京都杉並区）
平成28年3月　　二本松上演（福島県二本松市）

住吉町あけぼのばし商店会
（平成27年10月）

平成28年2月郡山上演では郡山品川市長さんから挨拶を頂きました。また、チラシ及びアンケートを配布し、多くの浪江町出身の方々に参加頂きました。

郡山上演
（平成28年2月）

事業の成果

人材育成

・絵本制作に関して

昨年度絵本制作担当として、若手がシナリオライト、イラスト及びその監修を担ってくれた。そのお蔭で絵本を制作する事ができた事及び彼等自身も絵本と言う形にした事が自信となったとの事。

・紙芝居上演に関して

今年度紙芝居と言う形で表現する事とした。弊NPOは団塊世代が社会のお役にという組織であり、取り合えず紙芝居語り部を担当した。7回もの上演に際し、観客のみなさんの直接の反応をみて、我々スタッフが為してきた事の意義を再度感じるものでありました。今後語り部は避難した当時小学生の方が大学生となり、これをずっと語り続けて頂く事を予定しております。

ネットワーク形成

・浪江町役場との連携

平成28年3月二本松上演にて、なみえ町3.11復興のつどいに参加させて頂き絵本も配布できた。

・請戸小学校教員の方との連携

紙芝居上演に際し、請戸小学校の先生方にも参加頂き、当時の避難の状況の説明にて、より臨場感のある催しを行う事が出来ている。

・郡山市との連携

浪江町から郡山市に避難している方が大勢いらっしゃり、品川市長を始め郡山の方にこの話を聞いて頂き、和んで頂いている。

・NPOチームワークの結成

この絵本制作、紙芝居上演を通して、我々NPOプロジェクトメンバーの結束が強くなり、他からも協賛･参加を頂きメンバーに加わって頂いている。

福島への思いを大事に、千葉での暮らしを支えるプロジェクト2015

特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

活動地域	千葉県内
活動分野	まちづくり、連絡助言援助

実施団体概要

〒261-0011　千葉県千葉市美浜区真砂5-21-12
TEL 043-303-1688　FAX 043-303-1689
E-mail　npo-club@par.odn.ne.jp
URL　http://www.npoclub.com

事業目的・課題・背景

福島県からの千葉県内への避難者数は約3,100名となっている。仕事、住居、経済的なこと、介護、子育て等、被災者の課題は多様で、ひとりひとりの状況の沿った支援が必要とされている。特に、高齢者は周囲との交流がないまま孤立したり、福祉的なサービスを受けられずに暮らしている状況が見受けられる。震災や被災者への市民の関心は薄れつつあり、理解と関心を促すことが必要と考える。

主な活動実績

情報交換会の開催

千葉県内で支援活動を行っている団体、専門家、千葉県職員、千葉県社協、千葉市社協、大学生等との情報交換会を2ヶ月に一度開催。述べ参加人数は、104人。

本年度の最後の回では、「阪神淡路大震災後の20年間の支援から学ぶ」と題して勉強会を開催。寄り添い支援を続けている「NPO法人よろず相談室」理事長牧さんから講演いただき、今後必要とされる支援について意見交換した。

情報交換会の様子

情報紙「縁joy」の発行

千葉県内の支援・応援情報や避難者からのメッセージを掲載し毎月（1月を除く）編集発行（A3両面1枚カラー刷り、2500部）。

被災地の役場から届く広報紙とあわせて、千葉県内に暮らす被災者に郵送している。又、千葉県内の社協、各自治体の市民サポートセンター等に配架依頼している。

よろず相談室の牧さんの講演

主な活動実績

全体の様子

ウルトラマン写真撮影会

イベント「縁joy・東北」2015　開催

平成27年11月28日(土)10：00～15：00
(当日来場者数約400名、スタッフ関係者150名)

宮城、福島県の物産販売、手作り体験、原田直之さん他ステージ企画、被災地役場職員との交流、専門家相談(法律、健康、住宅)、子ども向け体験、写真で伝える「被災地の今」展示、ウルトラヒーロー写真撮影会、「おらが町」応援メッセージ募集など。県内各地の支援団体と一緒に当事者である被災者も出展。昨年より、参加支援団体が増え、被災当事者で作る団体も参加した。また、今回はじめて「千葉在住福島県人会」に参加を依頼して、会の活動紹介等をした。開催に際して、支援団体をメンバーとする実行委員会を6回開催している。

被災当事者による体験発表

おらが町：福島とつながりたい交流会　開催

平成28年2月27日(土)13：00～15：00　　参加人数：29名

当日プログラム
- 被災者の体験談(避難区域内外からの避難者)
- 千葉県内の支援団体活動紹介
- 千葉在住福島県人会・松戸市福島県人会の活動紹介
- みんなで話そう!

千葉に避難された被災当事者の方や、被災地・被災者支援に思いはあるがどのように活動すれば良いか迷っている方に、震災後活動を始めた「支援団体」や、古くからある「福島県人会」の活動を紹介することで、参加者それぞれが福島とつながる方法を模索できればと期待して開催した。被災者、福島県出身者、被災地・被災者に思いを寄せている方が参加され、その後県人会に入会された方もいた。

事業の成果

人材育成

- 千葉商科大学、千葉大学、東邦大学の学生と連携してイベント「縁joy・東北2015」を開催したことで、学生たちにとっては、身近に被災者と接することで、震災への理解が深まり、支援の必要性や、伝えること(忘れない)の大切さの認識につながった。
- 各支援団体の中央労働金庫等の助成金申請をサポートすることで、被災者の活動を支援した。
- これまでつながりのなかった「よろず相談室」や「福島県人会」と交流することで、今後の交流に期待がもてる。
- 交流会や講演会を開催するにあたり、被災当事者や一般の方への広報の大切さを実感。これまでの参加者に個別にお誘いするなどの対応が必要と学んだ。

ネットワーク形成

●定期的に開催している情報交換会では、
- 福島県担当者、被災町支援員からは、被災地での復興情報や被災者に対する支援情報が報告された。
- 千葉県臨床心理士会の出席で、各支援団体で気になる被災者の相談が速やかにできた。
- 各支援団体から、参加者の固定化や住宅問題など課題の提供があり、必要とされる支援について意見交換することができた。
- 学習会「阪神淡路大震災後の20年間の支援から学ぶ」では、講師の牧さんが、福島県の復興公営住宅での支援活動も行っていることもあり、被災者の現在の暮らし、必要とされる支援についての理解を深めることができた。

●イベント「縁joy・東北2015」や交流会「おらが町」を、千葉在住福島県人会、松戸市福島県人会の協力も得て開催したことで、「県人会」のゆるやかな繋がりを理解し、活動を被災者、福島出身者へ周知することができた。

特定非営利活動法人 ハッピーロードネット

活動地域	福島県浜通り
活動分野	社会教育、まちづくり、子どもの健全育成

実施団体概要

〒979-0407 福島県双葉郡広野町広洋台二丁目1-5
TEL 0240-23-6172　FAX 0240-23-6171
E-mail office@happyroad.net
URL　http://www.happyroad.net/

事業目的・課題・背景

東日本大震災に伴う東京電力第一原子力発電所の事故により、双葉郡は避難指示区域が設定され、現在でも多くの住民の方々は避難を余儀なくされています。このような中で、仮設住宅等で生活する避難住民や次世代を担う商工業者のスタッフ等の協力を頂き、桜の植樹事業（ふくしま浜街道・桜プロジェクト）を実施する事により、浜通り地方の復興再生への機運を高め、帰還した住民の方々、双葉郡を離れている住民の方々が、夢と希望を持ち健康で生きがいのある生活を取り戻すとともに、地域再生の核となる人材を育成するものであり、併せて、風評被害の払拭に向け、全国からの植樹のボランティアを募集して浜通り復興支援ネットワークを形成するものです。さらには、福島浜通りの未来を担う子供たちが、住民の一人として主体的に地域づくり活動に関わっていける環境をつくり、「愛するふるさとの復興」を作り上げていく礎となるよう活動を進めています。

主な活動実績

ふくしま浜街道・桜プロジェクト

全国からのボランティアによる植樹や地元高校生による桜公園（広野IC付近）の整備を実施。また、平成24年度から平成26年度までの3年間の取り組みをパンフレットにし、活動内容等について積極的にPRを実施しました。

平成27年　9月20日　広野地区　70人
平成27年10月15日　富岡地区　30人
平成27年10月22日　楢葉地区　100人
平成27年11月　8日　相馬地区　100人
平成28年　1月21日　広野地区　50人

予定：平成28年2～3月　小高地区・新地地区・いわき地区・広野地区
「ボランティア」合計500人、その他に予定外のボランティア植樹があります。

主な活動実績

除草ボランティア

桜を植樹した後の管理について、当団体スタッフの他、ボランティアの方々にもお手伝いを頂き、除草を実施しております。全国からの高校生や大学生、一般の方々およそ300人に参加いただきました。

実施日：6月3日・6月21日
7月4日・7月13日
8月23日・9月17日
9月26日・10月15日
以上8回

清掃美化活動

桜を植樹した国道6号及び県道の桜植樹箇所周辺の清掃とごみ拾いを行いました。桜の木が少しづつ成長してきましたので、草刈だけではなくその周辺もきれいにしてメッセージが見やすい様に努力いたしました。

参加者：11月28日30人、2月27日100人、3月13日150人
3日間のべ280人

事業の成果

人材育成

今後、長期的な活動を維持していくために、若手スタッフの積極的な活動への参加、また、桜公園（広野IC付近）を地元高校生が課外学習の場として、継続的に携わる環境を確立した事で、若者を中心とした人材育成に繋がった。大人と子供たちが同じ事業を一緒に企画し実施することで、大人の考えや行動を子供たちが学ぶことができるとともに、ふるさとの地域住民のきずなが深まった。

ネットワーク形成

全国のボランティア参加者と浜通り地域の参加者の交流が促進され、浜通りの復興を支援するネットワークが形成された。さらには、地域づくり活動の運営強化につながっている。全国から参加して頂いた方々に福島浜通りの現状を知ってもらうことができた。さらに、参加した全国の方々に周知活動を行ってもらうことで、風評被害の払拭にも大きく寄与している。

食と心の支えあいプロジェクト

特定非営利活動法人 フードバンク山形

活動地域	山形県
活動分野	保健医療福祉、災害救援、子どもの健全育成

実施団体概要

〒992-0011 山形県米沢市中田町779-1
TEL・FAX 0238-37-3282
E-mail foodbankyamagata@gmail.com

事業目的・課題・背景

目的 既存コミュニティーへの参加が困難となっている避難者へ、新たなコミュニティー作りを促し共に問題に向き合う避難者間関係を作ること。そして、フードバンクシステムを用いて避難者自らボランティアなどの活動に主体的に参加してもらい、共助の仕組みの基盤作りと問題の早期発見を目指す。

課題 放射能リスクや二重生活による過度のストレスにより心のバランスを崩しかけている避難者の存在や孤立の危険性を持つ避難者世帯の存在。一方で避難者コミュニティーや相談窓口が減少傾向にある。

背景 震災発生から4年が経過したが避難者間での情報共有・問題共有が出来るコミュニティーの場は常に必要とされており、フードバンク山形にも支援継続を求める声が届いている。また、避難者支援の新しい形として、今まで受益者であった避難者自身が同じ境遇にある仲間たち、また困窮者や地域のための支援の声をあげること、支援する側へポールシフトすることが求められる段階に来ている。

主な活動実績

①ワンコインde絆の食事会事業及び絆の畑で繋がろう!

有機野菜の収穫祭・勉強会事業

事業内容：避難生活を送る親子を対象に月1回程度のカウンセリングも兼ねた交流食事会を行っている。(1食500円の自己負担) その際フードバンク活動についての説明をし、興味を持った方にはボランティアとして参加して貰っている。また食事会の前半で協力団体と協働し、安全な有機野菜の基礎知識が習得できる勉強会を開催し、実際に農作業を体験・作物の栽培・収穫祭を行った。

実施時期：食事会(6月～3月まで月1回)
絆の畑(6月～12月まで月1回)

場　　所：食事会(当法人のフロア・高畠の食堂)
絆の畑(協力団体よもぎの会の畑)

参集範囲：開催予定市町村の避難者

●実績：1回あたり約20名

絆の食事会：当フロア内

絆の畑：勉強会

主な活動実績

②避難者自身が主体的に支援活動に!
受益者から支援者のポールシフトチャレンジと避難者世帯の見回り・見守り事業

避難者自身が主体的に活動に取組むことで、自己有用感を高め生き甲斐が創造される。「受益者から支援者へ」とポールシフトを呼びかけ支援の場を提供することで新しい支援がうまれ、継続した支援が可能になった。また、見回り・見守り活動により心の問題・孤立困窮という問題の早期発見と避難者世帯の現状が見えてきた。

実施時期：6月から3月まで
場　　所：米沢市及び近隣市町村
参集範囲：米沢市及び近隣市町村の避難者
●実績：受益者数　1ヶ月平均　約20世帯（約60名）
※1世帯構成人数を3名とした

見回り・見守り時の寄贈品
（野菜・健康補助食品）

米沢社会福祉協議会にて避難者支援食品の提供

③社会福祉協議会・他の震災支援団体と連携した食料支援

県内各市町村の社会福祉協議会や支援団体との連携をとり情報を共有し避難者に対する食料支援を行っている。また複雑な困窮問題においては問題機関との入念な協議の上、場合によってはフードバンクスタッフ自らが支援の切り口となって関わっている。

実施期間：6月から3月まで
場　　所：県内の各市町村
●実績：受益者数　1ヶ月平均　約70世帯（約210名）
※1世帯構成人数を3名とした

事業の成果

人材育成

ワンコインdeの食事会に於いて、スタッフによる“カウンセリング”を行っているが、毎回相談者がいる為、カウンセラーの能力・相談対応が強化された。

また、避難者アルバイトによる“見守り・見回り”の効果については、避難者からの情報を入手し、他協力団体との連携を図れるまで育ってきた。更に、今事業を推進した事により、スタッフ全員一丸となり避難者の立場に立ち協力体制を図る事ができた。

ネットワーク形成

各市町村の社会福祉協議会等との情報共有の連携は勿論であるが、此処にきて直接個人からの要求・情報も図られる様になってきており、更なる避難者との「食と心の支え合う」ネットワークの構築ができた。

「心の駅」孤立防止と心のケア事業

特定非営利活動法人 おぢや元気プロジェクト

活動地域	福島県
活動分野	まちづくり、環境保全、災害救援、男女共同、子どもの健全育成

実施団体概要

〒947-0021　新潟県小千谷市本町1-4-16
TEL・FAX 0258-82-2650
E-mail　info@ojiya-genki.jp
URL　http://www.ojiya-genki.jp/

事業目的・課題・背景

事業の目的

傾聴に努めみなさまの辛い思いが少しでも軽くなるように。

課題

将来への不安や孤立など心のケアが必要。

背景

東日本大震災から5年を迎え、復興の個人格差も浮き彫りになっている。

主な活動実績

いわき市小浜「小浜心の駅」にて交流会の開催

実施期間：平成27年6月14日～平成28年3月31日
参加者数：約200名
　笑顔が溢れ、住民同士の心の絆も確かめられたように温かな空気が流れる時間となりました。

南相馬市仮設住宅「心の駅」にて交流会の開催

延べ16ヶ所
参加者数：約150名
　「心の駅」は、誰でも自由に使える場所です。24時間、365日使う人の心に寄り添います。居心地の良い交流スペースづくりを行いました。

主な活動実績

いわき市小浜海岸にて「復興祭」開催

実施期間：平成28年3月10日～12日
参加者数：約200名
南相馬市にて「心の駅」6ヶ所　約100名

3月11日は、いわき市小浜海岸の小浜心の駅で小浜地区や地元漁協や漁協婦人部、いわき市及び全国の僧侶のみなさま、工事関係者、団体や企業からの協力で開催いたしました。

事業の成果

人材育成

新しいスタッフも参加するようにしており、被災地域の方々との交流により、傾聴や心のケアなど大きな成長が見受けられました。

ネットワーク形成

交流会を開催することにより行政・他団体・個人とのネットワークが構築されてきました。継続が信頼を育むことにつながっており、確かめ合いながら、計画を作成しています。いわき市勿来支所や地域のみなさま、地元団体ともその都度情報交換が出来ており、行政の復興状況に加え、住民が抱えている課題も教えていただきながら、活動をすすめることが出来ており、関係者のみなさまに心から感謝をしながら活動をさせていただいております。

「ふくしまと世界の架け橋」総合ボランティアセンターの運営

特定非営利活動法人 Global Mission Japan

活動地域	福島県
活動分野	まちづくり、文化芸術スポーツ、災害救援、国際協力、経済活性化

実施団体概要

〒970-8026 福島県いわき市平字尼子町2番地の7
TEL 0246-23-5490 FAX 0246-23-5492
E-mail globalmissionjapan@yahoo.co.jp
URL http://www.globalmissionjapan.com

事業目的・課題・背景

多くの支援団体が撤退を余儀なくされているなか、福島県内外への避難者は12万人を超し、いわき市内の2万4千人の原子力事故避難者はいまだに支援を求めている状況です。被災地の細分化した課題を踏まえ、長期的視野に立った支援活動が求められています。

心ある国内外からのボランティアの受け皿として、かつ最前線拠点としての役割を果たします。一人ひとりの心の支えとなる日常的かつ密着した活動を通して、被災者の方々を後押しします。また幅広く各関連機関と協働活動をすることによりノウハウの蓄積を図り、これからの社会課題にも対応できる市民活動を目指します。

主な活動実績

仮設住宅巡回訪問

健康維持のための太極拳教室と、お茶会交流などを市内8ヶ所の仮設住宅で毎週3日間、延べ74回実施した。講師には福島県武術太極拳連盟選手強化委員長があたっており、本格的に学ぶ方も現れて継続活動の大切さを再認識した。

毎週1回の集会所での折り紙教室、カラオケ集会など住民の方々による自主的な集まりにもボランティアが参加した。

開催毎にお誘いもあり、賑わいを作り出すことができた。

不安と悩みを抱えている孤独なお一人の為にも、全力を尽くす思いで傾聴し、時を共有する個別訪問を行ってきた。

主な活動実績

フードバンクプログラム

県内NPOとの連携により、飲料品、レトルト食品などのロスフードを配布した。ストックヤードのある郡山市からいわき市に2トンを搬送し、当センターにおいて仕分け作業を行ったのち、復興公営住宅には新しいコミュニティー形成のために、また仮設住宅では安否確認を兼ねて各戸別訪問してお配りした。

ボランティアコーディネート

今年度も国内外から多くのボランティア約500名が当センターに宿泊して様々な活動に参加した。帰町が進む原発事故被災地にも出向き、町民の方々との交流を通して、復興の変遷を感じ取ってもらった。またフランス公共放送、英国ジャーナリストなどのメディア取材同行や英国学術者の第一原発でのカンファレンス通訳などを行い、世界への情報発信の一翼を担った。

フィールドワーク・現地防災教育

高齢被災者の家屋修繕清掃、高齢被災農家の稲作支援など、人手不足の分野での支援活動を行った。風評被害と米価低迷で売れなかった新米は、当会員等支援者への広報により直販ができた。生産者への励ましと同時に、支援活動への理解と啓発につながった。隣接県からの小中高校生を対象に津波被災地現地にて、被災時の様子と危機対応についての講話を行った。10月11日、11月13日、12月17日の3回にわたり開催し、総勢240名が参加した。地元被災者の語り部ご夫婦による話に真剣に聞き入っていた。

事業の成果

人材育成

中間サポート機構、自治体等主催のセミナーを積極的に聴講したうえで実践活動をすることにより、支援活動に係る問題点の掘り起しと解決策を的確に見出すことが容易になった。

ネットワーク形成

年々他の支援団体との交流と協働活動は増加しており、特に被災地へ帰還した地元NPO団体とは活発化してきている。本件事業により知り合った団体との繋がりで始まった現地防災教育は毎年継続して実施しており、次年度も予定している。またその紹介で他の団体との連携へと拡がりをみせている。

専門家および地域行政との連携により、長期避難者の生活再建を支援する事業

震災支援ネットワーク埼玉

活動地域	埼玉県
活動分野	災害救援

実施団体概要

〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂4-3-1-303
TEL 048-829-7400　FAX 048-700-3502
E-mail desk@431279.com
URL　http://431279.com

事業目的・課題・背景

下記課題解決・改善が目的です。

1. 昨年度の実施調査では、避難者の約2割が福島県への帰還を、約3割が県外移住を、約5割は問題が複雑化し決めかねている状況にある事が分かりました。生活基盤の安定・再建へ向けた問題解決を目指します。

2. 支援者の、被災者とのコミュニケーションからの問題整理能力、関連する地域社会資源に繋げる柔軟さ、最新の動向を把握しての対人支援、問題解決スキル等の支援能力の底上げを図ります。

主な活動実績

専門家の派遣

年間延べ派遣人数：80名

埼玉県内での避難者交流会等に、法律・心の専門家、ソーシャルワーカーが出向き、相談事例の解説、個別相談に対応。

主な活動実績

電話相談

年間相談件数：74件

　交流・相談会への参加が難しい方向けに、電話相談にも対応。必要に応じて社会資源につなぎ、抱える問題の解決、生活再建を支援。

避難者支援オーガナイザーワークショップ

　各専門家が受けた相談内容をケーススタディとして類型化。様々な専門家視点、経験・ノウハウを集約し、避難者が抱える課題に対して具体的な解決策を共有するワークショップを実施。支援能力の底上げを目的とする。

［第1回目］

平成27年11月28日（土）19：00～21：00
浦和コミュニティセンター第14集会室　18名

［第2回目］

平成28年2月13日（土）13：00～16：30
武蔵浦和コミュニティセンター第4集会室　10名

事業の成果

人材育成

　避難者交流会等に参加した法律・心の専門家、ソーシャルワーカーが、相談事例の解説をしたほか、新たな相談事例については報告書を作成頂いた。同様に、電話相談でも報告書として事例をとりまとめた。

　これらをもとに、ケーススタディのワークショップにおいて団体スタッフのみならず一般支援者、避難者自身が専門的知識や解決・改善にいたるためのノウハウを獲得することができた。

ネットワーク形成

　左記相談事例については、埼玉県内支援者会議「福玉会議」・交流会代表者会議「福玉リーダー会議」において全体への報告をし、当団体スタッフ・専門家が訪問しなくても解決・改善ノウハウが共有できるよう努めた。逆に、復興支援員や他団体から事例収集をし、当団体スタッフ間、訪問先の交流会参加者へ伝えることで密に情報共有を行った。

いいたてまでいの会

活動地域	福島市・飯舘村など
活動分野	文化芸術スポーツ、その他

実施団体概要

〒960-8042 福島県福島市荒町4-7 県庁南再エネビル2階
TEL 070-5622-4982 FAX 024-572-6006
E-mail iitatemadei@gmail.com
URL http://iitate-madei.jp/

事業目的・課題・背景

いいたてミュージアムとは、東京電力福島第一原子力発電所事故により全村避難となった飯舘村のこと、飯舘村に起こったことを福島県内外に広く発信し、未来の世代へも伝えていこうというプロジェクトです。

村民のみなさんのお宅へお伺いし、みなさんにとっての「古いモノ」「大事なモノ」「歴史的なモノ」を見せていただき、それにまつわるお話を集めてきました。「モノ」にまつわるお話から見えてきたのは震災・原発事故前の豊かな村の姿でした。

昨年、初めての県外巡回展を行った東京・神戸・京都に引き続き、今年度は静岡県で巡回展を開催します。ご覧いただくみなさまに「モノ」が語る力から、村の姿をお伝えできればと思います。

主な活動実績

いいたてミュージアム巡回展 静岡・金座ボタニカ

【会　　期】 2016年1月26日(火)～2月14日(日)
【観覧時間】 13：00～19：00
【会　　場】 金座ボタニカ4階 アートスペース (静岡市葵区研屋町25)
【入 場 料】 無料
【参加者数】 のべ200名

主な活動実績

いいたてミュージアム勉強会「飯舘を伝える」

【講　　師】 佐藤俊雄
（飯舘村文化財保護審議会委員）
乾　久子（アーティスト）
港　千尋（多摩美術大学教授）
【日　　時】 2016年1月30日（土）
15：00～17：00
【会　　場】 金座ボタニカ2階カフェ
（静岡市葵区研屋町25）
【参加者数】 36名

いいたてミュージアム巡回展　浜松

【会　　期】 2016年2月18日（木）
～2月28日（日）
【会 場 1】 鴨江アートセンター
（静岡県浜松市中区鴨江町1番地）
【観覧時間】 10：00～18：00
【会 場 2】 のヴぁ公民館
（静岡県浜松市西区入野町9156）
【観覧時間】 10：00～16：00
【入 場 料】 無料
【参加者数】 のべ100名

事業の成果

人材育成

事業の展開・聞き取り調査等を通じて、飯舘村民との交流の機会が増え、質的にも一方的支援ではなく、村民自らが自主性を持って参加し共通の目的に向けた相互協力的な関係が構築できた。

ネットワーク形成

県外での巡回展・勉強会の開催により他団体と交流（情報交換・情報共有）の場が増え、連携して事業を行うなど良好な関係を築くことができた。

学び・体験・交流による被災者の生きがいづくり事業

特定非営利活動法人 シニア人財倶楽部

活動地域	いわき市
活動分野	保健医療福祉、まちづくり、観光振興、農林漁村中山間、文化芸術スポーツ、子どもの健全育成、情報化、その他

実施団体概要

〒970-8045　福島県いわき市郷ケ丘2丁目54-1
TEL 0246-88-6501　FAX 0246-88-6502
E-mail sinia-jinzai@waltz.ocn.ne.jp
URL　http://npo-s-jinzai.jp/

事業目的・課題・背景

未だ市内の各仮設住宅に居住する住民にとっては、住居の質を含めた閉鎖的な環境、家族や友人との離散、先行き不透明な入居期間など、慣れない土地での避難生活が心身に悪影響を及ぼしている。特に交通手段を持たない高齢者にあっては、その影響が顕著である。

弊法人はこれら各仮設住宅を巡回して生鮮食料品等の移動販売事業を実施しているが、利用者達から「一人暮らしで寂しい」「閉塞的な仮設住宅エリアから出たい」「日々コミュニケーション不足で寂しい」という声が多く聞かれる。

そこで、一時的にでも彼らの精神的な解放を図るイベント等を実施し、自立を促し、生きがいづくりとなる機会を提供するとともに、仮設住宅居住者間だけでなく都市部及び農村部居住者との交流による相互コミュニケーションを通して、新たなコミュニティづくりに貢献することを目的とする。また、過疎化が進む山間部の三和町においては、交流人口増による賑わい創出、地域活性化を目的とする。

主な活動実績

農業体験・体感

仮設住宅居住の高齢者を、市内三和地区の畑に移動させ、農作業を行った。田起こしから始まり、大根を種まきから育て、収穫した。（とうもろこしは収穫前に猪の被害に遭った）また、地元農家の協力により、米・里芋・柿・キウイ・レタスなどの収穫体験も行った。さらに、三和町渡戸高野集会所の花壇でガーデニング（花植え）を行った。
全14回実施。
参加者数：のべ100人以上

主な活動実績

ソバ打ち体験教室

仮設住宅居住の高齢者を、市内三和町のソバ屋「御食事処なごみハウス」に招き、ソバ打ち体験を行った。自分たちが打った打ちたてのソバを、昼食としていただいた。
全3回実施。
参加者数：のべ50人以上

里山ハイキング&芋煮会

里山の原風景を残す三和町渡戸高野地区にて、仮設住宅居住の高齢者と弊法人会員、さらに地元住民を交えて芋煮会を催した。健康増進のため同地区内のハイキングを実施、その後芋煮会で交流した。余興として輪投げゲームや大抽選会を実施するなどして、大変盛り上がった。
11月16日実施。
参加者数：100人

事業の成果

人材育成

一昨年度から継続しての事業となり、多数のイベントを実施することで企画力が、さらには各イベントにおいて弊法人各スタッフ、会員、講師等その他協力者らと協働で成功させようと、協調性が磨かれた。

数多くのイベントを成功させ、運営能力も向上した。

ネットワーク形成

- ふだん移動販売事業で接している仮設住宅居住の高齢者との絆が、さらに強まった。
- 三和渡戸高野の地域住民とのつながりが強まった。
- 各講師、会員、その他協力者と、イベントを運営するための人的ネットワークが強化された。（今年度からの新企画も多く、ネットワークが広がった）

特定非営利活動法人 プロジェクトFUKUSHIMA

活動地域	福島県
活動分野	文化芸術スポーツ

実施団体概要

〒960-0261　福島県福島市飯坂町中野字山岸7-1
TEL 024-572-6241　FAX 024-572-6242
E-mail profukushima@gmail.com
URL　http://www.pj-fukushima.jp/

事業目的・課題・背景

福島から文化を発信していく、福島をポジティブな場所に変えていく、ということを目的に、震災後の福島でフェスティバルを中心に様々な活動を続けてきました。

時間経過と共に複雑化・進化する福島を巡る困難な状況の中でこそ、現実とどう向き合うか、その視点と方向性を人々に示唆する力を秘める音楽や詩やアートなど「文化」の力が必要だと私たちは考えています。盆踊りや福島大風呂敷、インターネット放送などのプロジェクトを通して、原発災害を契機に生まれた様々な分断や対立などの問題に継続的に向き合い、立場や考えの異なる人々が集い、語らう場を作り、福島発の文化を発信していきます。そして福島で希望を持って生きていく原動力となることを目指します。

主な活動実績

「フェスティバルFUKUSHIMA!」開催

5月9日、6月5日、7月5日、7月31日、8月14日　福島市音楽堂他
「盆バンド」ワークショップ（盆バンド＝本年度結成されたプロアマ混合の盆踊りのためのバンド）

8月15日　福島市街なか広場
「フェスティバルFUKUSHIMA!2015納涼!盆踊り」
プロジェクトFUKUSHIMA!の象徴である福島大風呂敷が敷き詰められ、その中心に様々な飾りを施したやぐらを設置した会場で行いました。
メインの盆踊りの前には、山木屋太鼓による演奏、珍しいキノコ舞踊団によるパフォーマンスなどのライブを行いました。盆踊りには約3,000名の来場者があり、本年度結成された「盆バンド」、「あまちゃん」の音楽で知られる大友良英率いる「大友良英スペシャルビッグバンド」による生演奏のもと盆踊りを行いました。また、地元商店街による移動販売車にも参加いただき祭りを盛り上げていただきました。

▲▼カメラマン椎木静寧

主な活動実績

出演：大友良英スペシャルビッグバンド、盆バンド、長見順、岡地曙裕、テニスコーツ、珍しいキノコ舞踊団、茂木淳一、山木屋太鼓、中里順子

インターネット放送「DOMMUNE FUKUSHIMA!」

6月 15日「STOP!思考停止 開沼博からの提言 vol.1 農業」
出演：大友良英（音楽家）／開沼博（社会学者）／小山良太（福島大学教授）

8月 15日「フェスティバルFUKUSHIMA!納涼盆踊り」

9月 11日「STOP!思考停止　開沼博からの提言　vol.2 漁業」
出演：開沼博／濱田武士（東京海洋大学准教授）／PIKA（音楽家）

10月 13日「イメージのなかの福島／フクシマ／FUKUSHIMA」
出演：遠藤ミチロウ（音楽家）／藤井光（美術家）／開沼博／小川直人（キュレーター）

12月 12日「STOP!思考停止　開沼博からの提言 vol.3 フクイチ」
出演：開沼博／吉川彰浩（Appreciate FUKUSHIMA Workers代表）／PIKA（音楽家）

3月　1日「STOP!思考停止　開沼博からの提言 vol.4 “After 5years”」
出演：開沼博／PIKA／小川直人／山岸清之進（プロジェクトFUKUSHIMA!代表）

事業の成果

人材育成

有償のスタッフを増やすことにより、これまで集中していた作業を分担でき、経験者からのフェスティバル開催に向けたノウハウを獲得したメンバーが増え、継続のための下作りができました。また、作業を分担することにより協調性がより深まり、今後に向けての活動がさらにやりやすくなりました。

ネットワーク形成

「フェスティバルFUKUSHIMA!2015納涼!盆踊り」に福島県内外から来場いただいたり、インターネット放送を視聴いただくことで、各地元でも開催したいとの声が広がり、その地での大風呂敷作成活動などを通し、福島からの避難者はもとより、各地元の方々との交流が深まり福島の現状を共有することができました。また、各地での開催者の中には運営のプロも多く、その運営方法のノウハウも当法人のスタッフが学ぶことができました。来年度も、札幌市、東京都などからの招致が決まっています。

うたと演奏のキズナプロジェクト

「うたと演奏のキズナプロジェクト実行委員会」

活動地域	福島市
活動分野	社会教育、文化芸術スポーツ、地域安全、男女共同、子どもの健全育成、情報化、職業能力雇用、連絡助言援助

実施団体概要

〒960-8117　福島県福島市入江町12-3
TEL・FAX 024-529-6565
E-mail　yutaka-w@mif-brilliant.com
URL　http://f-kizuna-project.com/

事業目的・課題・背景

福島の子ども達は、原発事故により多くのストレスを抱えている。特に多感な中高生に対するケアは教育の現場において多くの課題を残している。今回の事業は、中高生の心のケアを目的とし、中高生が対象の作詞作曲プロジェクトを行う。曲作りを通し、力を合わせて一つの事を成し遂げる達成感や、全国へ配信する喜びを体験できるプロジェクトであり、福島に生まれ育って良かったと誇りを持って社会に羽ばたける人材を育成する。

主な活動実績

作曲ワークショップ開催

実施期間：平成27年9月～平成28年2月
参加人数：107名（延べ人数）

福島大学名誉教授　嶋津武仁先生やスタッフ達がパソコンを使い、作曲するワークショップを行った。引きこもりの子供や愛育園さんの園児達も参加し世代を超えたコミュニケーションを取りながら実行。月に3～4回開設。

作詞ワークショップ開催

実施期間：平成27年9月～平成28年2月
参加人数：72名（延べ人数）

作曲同様、地元福島の詩人　和合亮一氏（教諭）を講師に招き、子供達がパソコンを使い、作詞するワークショップを行った。盲学校の生徒さん達にも作詞をしてもらった。月に3～4回開設。

主な活動実績

音楽サロン運営

実施期間：平成27年9月～平成28年2月
参加人数：115名（延べ人数）

ブリリアントに音楽サロンを常設し子供達をいつでも受け入れられるようにした。部活や家のスケジュールでワークショップに参加出来ない子やコミュニケーションが苦手な子が通えるようにした。

児童福祉法人 愛育園にて合唱の練習

実施期間：平成27年9月～平成28年2月
参加人数：52名

福島大学名誉教授　嶋津武仁先生を招いて、幼稚園児から高校生の愛育園児と一緒に合唱の練習を行った。普段合唱に興味が無い子供達も楽しい時間を過ごせた。

成果発表コンサート

実施期間：平成28年2月　参加人数：127名

スケジュールの都合で「こむこむ」のホールで成果発表を行った。小学生、中学生や高校生が参加し美しい合唱と合奏のハーモニーを奏でた。子供達に色違いのバンダナを製作し、各々の好きな場所に巻いて演奏、歌声を発表した。バンダナには参加者全員の名前を記載、参加者の絆を深め、福島への絆も深められた。観覧者もホールに入れないくらいのお客様に来ていただき大成功した。

事業の成果

人材育成

スタッフ・協力者・ボランティア全てが、音楽を通し子ども達の心の育成やケアに取り組むことが出来た。ワークショップを実施することで、スタッフのリーダーシップが育成された。心に障害がある子供を含め様々な生徒達とふれあう事により、学校のみならず社会で子ども達を育てるという意識を高く持てた。地元の大学生がボランティアで参加し、今後も当団体の事業に参加して行きたいとの言葉も得られた。

ネットワーク形成

地域の小学校・中学校・高校との連携が強固なものとなった。福島市教育委員会やオーケストラ音楽団体等と連携し、子ども達の音楽に対する気持ちを育てるための情報共有が出来た。音楽での震災支援活動という事が可能であると証明出来た。

避難者向け女性人材バンクネットワーク形成と講師養成講座の開設

山形避難者母の会

活動地域	山形県村山地区
活動分野	子どもの健全育成、その他

実施団体概要

〒990-0038　山形県山形市幸町 7-32
TEL・FAX 023-600-7167
E-mail yamagatahinanhaha@gmail.com
URL　http://yamagatahinanhaha.jimdo.com

事業目的・課題・背景

原子力災害により主に福島県中通り地区から山形県山形市周辺に避難した自主避難者たちの多くは仕事のある父親を福島に残し母子のみで避難している。その多くは小さい子どもを抱えているが夫や親のサポートもなく、福島と山形とで二重生活をしているため経済的に苦しい。避難が長期化する中で第二子や三子を出産した家庭もあり、小さい子がいても働ける環境が望まれている。

山形県の避難者4204名のうち（平成27年5月現在）1384名が山形市におり、その半数は母子避難などの家族の一部で避難している方である。平成26年度10月に山形県が実施した避難者アンケートによれば、避難生活で最も不安に感じているのが生活資金のことであり（63.7%）、現在無職で就職を望んでいる方の51.0%がパートタイム就労を望んでいる。当団体の会員からも、「子どもが帰ってくるまでの時間の仕事を探してほしい」などの意見が多くある。

山形県内に暮らす自主避難者・母子避難者の経済的負担を軽減するための就労支援として、子どもがいても働ける環境作りとその資格取得をサポート。福島帰還後のアフターフォローも視野に入れる。

主な活動実績

リフレクソロジスト養成講座開講（足ほぐし手ほぐしセラピー）

9、10、11月の3講座。6名×3回=18名の講師が誕生した。専門講師によるフォローアップ2月1回。避難者が日々集まり、スキルアップに励んでいる。

本事業の専門講師であるWHOLE TREATボディワーク研究所の手島渚氏は様々な著書を書いており、その実力は広く知られている。（最新著書は「足ほぐし手ほぐしセラピー」光村推古書院）

講師の手島渚先生

主な活動実績

上記講座の修了生

講座受講生の中には、山形避難者母の会スタッフ3名を含んでいる。彼らが今後起動力となり、山形で実際に仕事になるような流れを次年度作っていく予定。

福島に帰還後も仕事を通じて自然に元のコミュニティに戻れるよう、福島事務局側でフォローアップしていく。

話し合いの様子

女性人材バンク相談室の設置

ふくしま子ども未来ひろば内に、相談室を設置し、避難中の母親ができそうな就労先をピックアップして掲示。パソコンも設置してインターネットで検索できるようにした。情報支援の一環として、手に職を持って活動する母親との情報交換なども行った。

事業の成果

人材育成

講座受講生のうち3名が山形避難者母の会のスタッフである。仕事を持ちたい母の気持ちを聞き、講座内容を把握しながら今後仕事の場を提供していくというのがスタッフも講座に関わらせた目的のひとつである。講座中の避難者同士の会話からなども次への支援事業の道筋をいくつか拾い上げることができた。団体としては自立への大きな一歩となる「就労」に繋がる事業を行うことができ、講座にスタッフが参加したことで自然にスキルアップがはかれた。

ネットワーク形成

元々は講師である手島渚氏が震災後、福島に暮らす母親たちのための場づくりとして始めた活動がヒントになり本事業を行う運びとなった。山形から帰還する方の多くは県北出身者であり、本講座の修了生も県北に多く存在する。帰還後元のコミュニティに戻りにくいと感じている避難者が仕事というツールを通して日常に戻っていく流れを作ることができた。これが最も大きな成果である。

県外避難者の健康と生活支援および支援者の活動強化事業

特定非営利活動法人 医療ネットワーク支援センター

活動地域	東京都
活動分野	保健医療福祉、その他

実施団体概要

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-12-1-302
TEL 03-6438-2852　FAX 03-6438-2851
E-mail info@medical-bank.org
ＵＲＬ http://www.medical-bank.org
（復興支援サイト http://h-aid.jp）

事業目的・課題・背景

東京の県外避難者（6,973人：復興庁全国避難者数平成28.1.14現在）支援には、避難者の課題として、避難生活の歳月経過に伴う高齢化等により『健康』や今後の『住まい』の不安があり、支援者側の課題としては、支援の在り方の変化に柔軟な対応が必要な一方で、震災の風化により支援が減少傾向にあります。そこで、当団体の医療・健康分野の知見を生かし、**避難者が不安への対応力を得て、自己判断や自立のきっかけを得る**こと、また、支援者間の情報共有、活動力強化を目的に本事業を実施しました。

主な活動実績

1. 支援活動勉強会と支援者間の情報連絡会

首都圏の避難者の現状および課題について東京、埼玉、神奈川、福島県双葉郡の自治体、支援団体と共に情報共有を行いました（7月24日・27名参加）。また、協働企業の社員を対象としてボランティア講習会で県外避難の背景や現在の課題について理解を深めました（7月20日、9月12日、2月13日・延べ150名参加）。

2. 県外避難者のための「住まい」「健康づくり」情報セミナー

帰還や定住、移住を検討するための情報支援と、今後の生活設計や故郷の家族・友人との交流に役立てていただくためのセミナーを実施し103名参加いただきました。

- 第1回絆セミナー：平成27年8月7日（中央区）
  テーマ「健康の自己管理と正しい情報の読み解き方」
- 第2回絆セミナー：平成27年10月14日（中央区）
  テーマ「今後の住まいについて考えよう」
- 第3回絆セミナー：平成27年12月19日（中央区）
  テーマ「甲状腺がんの正しい知識セミナー」
  講師：自治医科大学医学部 臨床検査医学教授 谷口信行氏

主な活動実績

・情報誌を配布
「住まいの情報HOT NEWS」
（民間賃貸住宅の家賃相場マップ）
「健康家族」（健康の自己管理と健康情報の読み解き方）

3. 県外避難者と故郷の家族・親戚・友人のきずな交流バス支援

今後の生活再建に際し、故郷の家族、親戚、友人と絆を温める機会として、路線バスによる帰郷を支援しました。日時、行き先が限定される貸し切りバスではなく、乗車日程、行き先が選べる路線バスを活用したことで200名の応募がありました。

・第1回乗車期間：平成27年　8月　7日～10月14日
・第2回乗車期間：平成27年10月15日～12月31日
・第3回乗車期間：平成27年12月19日～平成28年2月15日

4. 県外避難者と支援者との自立情報共有交流会

参加者は企業のCSR担当者、社員ボランティア、支援団体、東京・埼玉の避難者、計40名。避難者の方々から、震災と原発事故により県外に避難してきた経緯や4年を経た現在の心境、現在の活動などについて生の声を聞き、支援者も避難者も共にできることは何か語りあいました。平成27年12月12日（墨田区吾妻橋）

事業の成果

人材育成

・活動に携わるスタッフ、ボランティアが県外避難者が現在抱えている「住まい」「健康」の課題に対して、どのような社会資源につなぐことが必要か等の情報、知識を深めることができました。
・その成果として交流会等での傾聴や相談への対応に柔軟に取り組めるようになり、また的確な現状把握ができるようになりました。

勉強会での研修内容

・東京都の都営住宅の特例措置とその手続き
・首都圏の民間賃貸住宅の家賃相場について
・個人情報の取扱いについて
・避難者の現状と課題

ネットワーク形成

・復興支援員や自治体も含めた支援団体との情報連絡会で、首都圏の県外避難者の現状と課題、必要な支援について意見交換し、連携を図ることができました。
・東京都とは、本事業で行う絆バスと、都の支援策の貸切帰郷バスを避難者が必要に応じて活用できるよう、相互に協力しました。
・また、企業との協働で、今後の住まいに関する支援策として、行政から紹介できない民間情報として「民賃貸住宅の家賃相場」を調査し、路線別の一覧地図にして提供。今後の生活設計に非常に参考になったとの反響をいただきました。

小高区住民の絆コミュニティ構築事業

特定非営利活動法人 浮船の里

活動地域	南相馬市
活動分野	その他

実施団体概要

〒979-2103 福島県南相馬市小高区大井字深町76番地
TEL・FAX 0244-44-1134
E-mail ukifunenosato@gmail.com
URL http://ukifunenosato.org

事業目的・課題・背景

南相馬市小高住民の繋がりを広げ、避難者コミュニティの再構築を図ると共に、住民自らが一歩進めるように促すことを目的として、小高区で気軽に集まれるコミュニティスペースの運営を軸に小高住民と県外の支援者が話し合いを行うワークショップの開催と住民主体による新規プロジェクトを実行します。また、小高区の伝統的に受けつがれてきた養蚕、そして手織の製品をつくる上での多くの作業工程をつくりだし、「生きがい」づくり「居場所」づくりを目指します。

主な活動実績

コミュニティスペース

「あすなろ交流広場」運営
オープン：月～日（不定休）9時～17時

・避難している小高区住民が気軽に立ち寄れる場所。
・コミュニティの再構築。
・イベント等の実施による住民同士の繋がりを深める。

主な活動実績

「芋こじ会」月1回開催の話し合いの場

・県内外の支援者と小高区住民が集まり、現状について話し合い、その課題に対してどうできるのか自らも考えるワークショップ。
・帰還に向けて、自らが一歩進めるようなきっかけを見つけてもらう。
・これまでに約30回開催され、参加者は約230名。

「小高天職」プロジェクト

・小高区でかつて盛んだった養蚕と機業を自らの手仕事で復活させ、シルク製品をつくり出す。
・手仕事での多くの工程による「生きがい」や「居場所」の創出と、将来的なスモールビジネスの創出を目指す。

事業の成果

人材育成

一年間を通じて、主に活動に従事している3名のスタッフが養蚕・自然染・機織の技術向上を得る事が出来た。

具体的には、

【養　蚕】

昨年度：蚕500頭 ➡ 今年度：8000頭 ➡
次年度：12000頭予定

【自然染】

昨年度：1種類 ➡ 今年度：25種類
（小高の自然を使って四季折々に実施）

【機　織】

昨年度は出来なかった100%小高産シルクによるストール等の製作ができるようになった。また、平織だけでなく絣や花織など、模様の入った機織りの技術も学ぶことができた。

ネットワーク形成

事務処理の協力や専門家の協力を得られるようになった。

事務処理協力には、㈱小高ワーカーズベースの協力を得た。補助金の申請方法や経費処理についてノウハウを学び、次年度の補助金申請についても協力を得られることとなった。

専門家協力には、群馬県在住の機織り専門家から技術指導を得ることで関係が強固になったり、東京農工大の友の会の講師から技術指導を得ることで、関東在住の東京農工大友の会メンバーとのネットワークや交流が広がり、情報交換や新しい技術の獲得につながった。

NPO 法人 中之作プロジェクト

活動地域	いわき市中之作
活動分野	まちづくり、地域安全

実施団体概要

〒970-0313 福島県いわき市中之作字川岸10
TEL 0246-55-8177　FAX 0246-55-8178
E-mail toyorder.y@gmail.com
URL　http://toyorder.p1.bindsite.jp/nakanosaku/

事業目的・課題・背景

いわき市中之作は、東日本大震災と津波による被害を受けましたが、地形など様々な要因により奇跡的に多くの建物が残された港町です。しかし、少子化・高齢化・核家族化・過疎化などの社会問題により、港町の風景をつくる貴重な建物は修復されずに次々と壊されてしまいました。

震災に耐えた貴重な港町の風景を次の世代に伝えるため、地域コミュニティの再構築と、地域に若い移住者を増やす取り組みが地域課題です。

主な活動実績

地域の文化・伝統を次世代に伝える活動

●サンマ料理教室

開催時期：平成27年10月24日
場　　所：清航館
参 加 者：20名

港町に伝わる母の味を次の世代に受け継ぐ事を目的とした料理教室を開催しました。

地域活性化に繋がる活動

●つるし雛飾り祭りの開催

開催時期：平成28年2月6～8日
場　　所：清航館
来 場 者：約4000名

震災前から続く地元のお祭りです。今年から当プロジェクトが主体となって開催しました。地元のお母さん方が一年かけて作り上げたちりめん細工のひな人形を軒先や家の中に飾ります。

主な活動実績

●餅つき大会の開催

開催時期：平成27年12月27日
場　　所：清航館
参 加 者：約500名

　日本一長い餅つき大会と称して、田植えから稲刈り、脱穀等を参加者に体験してもらい、収穫したもち米で年末に餅つき大会を行いました。

地域課題に取り組む活動

●空き家調査

実施時期：平成27年9月～平成28年3月

　少子高齢化と空き家問題について調査することで実態を把握し、今後のまちづくりに役立てる活動です。

●中之作景観賞の募集

実施時期：平成28年2月1日～平成28年3月22日（募集期間）
　　平成28年3月28日（公開審査）

　津波に耐えた港町の風景はそれだけでも貴重ですが、同時に歴史ある地域です。

　この風景を後世に伝えるべく、この地域にふさわしい、港町の風景を形作る建物を増やしたいと考えました。

　景観賞は、周辺の景観に配慮した建物、周辺に潤いを与えるような建物を対象にしています。

事業の成果

人材育成

　地域の歴史の文化について、地域とかかわる事で知識を得ることができました。NPOのメンバーと地域住民とのコミュニティが取れるようになってきました。地域おこしを進める上で地元の協力が重要であり、今後のまちづくりに繋がる大きな一歩だと考えます。

ネットワーク形成

　事業を通じて、新たに地域の漁業組合やまちづくり協議会とのつながりを持つことができました。また、今までつながりのあった企業組合おてんとさんや学童保育を営む企業等の連携を進めることができています。

仮設住宅高齢者住民、並びに地元高齢者住民に対するボランティア介護予防体操教室の実施事業

特定非営利活動法人 コーチズふくしま

活動地域	福島県いわき市
活動分野	保健医療福祉

実施団体概要

〒970-8036 福島県いわき市平谷川瀬字明治町83-1
TEL・FAX 070-5326-7222
E-mail cfukushima2012@gmail.com
URL http://www.c-fukushima.com

事業目的・課題・背景

急速な高齢化の進行により介護力の低下が起きている現在。東日本大震災によりいわき市では、被災市町村からの人口の移転に伴い、高齢者が一段と増加しました。介護予防体操教室をいわき市内の介護事業所・仮設住宅・公民館で開催して、高齢者の体力や筋力の向上により、高齢者の健康や高いQOLを維持しながら、介護予防に重点を置き、家族や市町村の介護の負担が少ない社会を目指します。

主な活動実績

2016年3月25日現在、きずな事業の受益者数は1,601人となっております。内訳は女性が1,242名、男性が359名です。

右の写真は民間デイサービスでの当法人の事業風景です。

ひと月におよそ5～10教室をおこないました。

主な活動実績

いわき市内にある富岡町、広野町、川内村の仮設住宅集会所や談話室で、体操教室を開催しております。

右の写真は仮設住宅集会所での当法人の事業風景です。

ひと月に5回ほどおこないました。

いわき市内の交流サロンや健康サークルの会場でも、体操教室を開催しております。

左の写真は地域の健康サロンでの当法人の事業風景です。

2か月に1～2回おこないました。

事業の成果

人材育成

体操指導員の現場でのスキルが向上しました。体操プログラムの構成を、参加者の体力に合わせて対応できるようになりました。また突発的なトラブルに対して冷静に対処できるようになりました。

体の骨や関節、筋肉の仕組みなどの専門的な知識を獲得することができました。介護施設のスタッフから直接、介護に関する知識や認知症について学ぶ機会がありました。

ネットワーク形成

以前から提携しているいわき市内の地域包括支援センター、富岡町、広野町、川内村とはさらに強いきずなで結ばれております。

当法人の活動が、民間デイサービスからも少しずつ認知されてきました。

他団体から体操教室を開催する場所を提供していただきました。

大熊町や双葉町、楢葉町の社会福祉協議会スタッフと、個人レベルでの交流が得られました。

6号線の既設フリースペース（カフェ野馬土）を利用した地域活性化事業

特定非営利活動法人 野馬土

活動地域	相馬市
活動分野	まちづくり、観光振興、農林漁村中山間、環境保全、災害救援、地域安全、国際協力、経済活性化、職業能力雇用、消費者保護、連絡助言援助

実施団体概要

〒976-0006　福島県相馬市石上字南白髭 320
TEL 0244-26-8437　FAX 0244-26-8203
E-mail info_nomado@fork.ocn.ne.jp
URL　https：//nomado.info

事業目的・課題・背景

震災から4年、避難先で新生活を始めた人がいる一方、将来に迷い仮設を出られない人もいる。暮らしのカタチは様々だが、安心して暮らせるコミュニティを今後どうやって作っていくかが被災者の共通した課題である。野馬土は、カフェ野馬土を誰もが集い交流できる場として提供して人のつながりを醸成し、被災者を含む地域の人々が安心して暮らせるコミュニティづくりをサポートしていく。また、地域づくりを推進する人材の育成、世界へ向けての情報発信も並行して取り組む。

主な活動実績　全事業のべ参加者：475名

①おしゃべり料理教室　参加者：20名

昨年好評だった料理教室を10月4日に実施。

今回は、前回要望が多かった「大豆を使った料理」をテーマに開催しました。地元の大豆を使い、手作り豆腐、豆乳鍋、おから料理、デザート等のメニューで、若い方からご年配まで幅広い年代の参加がみられました。メニューごとに班分けをしましたが、同じ班の方と会話が弾み、調理から試食まで多くの方とコミュニケーションがとれた良い機会になっていたと感じます。また、アンケート結果にも「初めて会った方との会話が盛り上がった」との回答が多くありました。

主な活動実績

②野馬土3周年感謝祭　参加者：360名

10月31日実施。長野、京都からのボランティアにも参加いただきました。長野からは餅つき披露と、つきたてお餅のお振る舞い。京都からは焼き肉・焼きそばのお振る舞いをしていただき、協力して感謝祭を盛り上げることができました。また、地元の方の協力で豚汁、チョコバナナ、ポン菓子のお振る舞いもすることができました。ステージの出し物としては、全員参加型のチアダンスやいつもカフェをレンタルスペースとして利用している方々の楽器演奏、地元出身のシンガーソングライター、大人から子供まで楽しめるマジックショーを開催しました。この機会に県外、県内の方々とより良いネットワークが構築できました。

③蕎麦打ち体験教室　参加者：10人

NPO法人シニア人財倶楽部のご協力をいただき12月12日に実施しました。スペースの都合上、定員10名という少ない枠でしたが、男性の方やご夫婦での参加も見られました。蕎麦打ち体験後は試食会も設け、自分で打った蕎麦を美味しく頂きました。その後、おさらいで打った蕎麦はお土産としてお持ち帰りいただきました。初めての蕎麦打ちをみんなで楽しく体験していただき、最後のアンケートでは「またやりたい」との声が多くありました。

④おしゃべりお菓子作り教室　参加者：20名

おしゃべり料理教室の講師を再び招き1月31日に実施。

ヨーグルトケーキ・クレープ・いちご大福・くるみ味噌ゆべしを作りました。今回も幅広い年代の方の参加をいただきました。調理後、コーヒーや紅茶を飲みながら自分達で作ったお菓子を食べ、みんなでおしゃべりをして楽しいひとときを過ごしました。地域の方々とのコミュニケーションが取れる良い機会になりました。

事業の成果

人材育成

- 職員が増え、本事業に携わる人数が多くなったことにより、NPOの意義やこの地域で活動するNPOへの関心がより一層高まった。
- 全7回の事業を経て今後さらに地域活性のお手伝いをしたいという意欲が湧いた。
- 他のNPO団体との交流を深めたいと思い、積極的に活動するようになった。

ネットワーク形成

- 『カフェ野馬土』を通じて、地域の人とのつながりが増えた。
- 本事業に参加する年代の幅が広がった。
- 知人の紹介などにより、多種多様の団体とのつながりを持つことができた。
- 参加者同士の交流が進み、新しいコミュニティ作りの一助となった。

特定非営利活動法人 フラガールズ甲子園

活動地域	いわき市
活動分野	まちづくり、文化芸術スポーツ、子どもの健全育成

実施団体概要

〒970-8025 福島県いわき市平白土字八ツ坂36-2
TEL・FAX 0246-68-8282
E-mail info@npo-hulagirls.org
URL http://npo-hulagirls.org/

事業目的・課題・背景

1960年からのエネルギー革命で地元いわきの基幹産業（石炭産業）は大きな方向転換を迫られ、観光事業（ハワイのフラを題材にした娯楽場）へと方向転換してきました。それから50年の年月を経てようやく根付いた観光産業も、2011年の東日本大震災に伴う原子力災害で大きなダメージを受けました。

しかし、先人たちが苦労して築き上げたいわき独自のフラ文化を、日本のフラの聖地として位置付け、国内はもとより環太平洋諸国とのつながりを密にして活動することにより、新たな街作りの柱としたいと考えています。

高校生によるフラの全国大会「フラガール甲子園」の週間をフラウィークと命名して、多くの市民が気軽に参加できる複合型事業を展開していわきのフラ文化が外部に発信され、市民の心の支えになることを目指します。

主な活動実績

いわきフラウィーク2015inPIT
（フラガールズ甲子園を応援しよう）

開催日：平成27年8月17日（月）18日（火）
会　場：いわきPIT
17日（月）入場客・出演者（500名）
18日（火）入場客・出演者（1,000名）

フラガールズ甲子園の本大会のPRの効果があった。

スタッフに対しての、大会運営の研修や行動の試行イベントになった。

主な活動実績

サマーフラフェスティバル

開催日：平成27年8月23日（日）
会　場：いわき中央公園　観客（600名）
　フラガールズ甲子園大会と同時開催することによりイベントのPR効果につながった。高校生だけでなく、フラの愛好者、団体との連携がとれ将来の組織づくりの基礎ができた。

第3回全国学生フラ・フェスティバル2016inいわき

開催日：平成28年3月23日（火）
　　24日（水）
会　場：スパリゾートハワイアンズ
参加大学：鎌倉女子大学他9校
　スパリゾートハワイアンズのメインステージを使い参加校それぞれのフラを披露。各大学のフラグループとの交流会の開催。

慰問活動

開催日：平成28年2月24日（水）
いわき市内各施設へ出向きフラを通しての慰問活動
延べ参加人数：1000人（学生460人　小学校・幼稚園・老人介護施設）

事業の成果

人材育成

　スタッフの会場準備・イベント運営・参加団体との調整能力のスキルアップにつながった。本事業を通じて、他団体（鎌倉女子大学・神田外語大学・日本芸術専門学校・同志社大学・神戸海星女子学院大学・群馬県立女子大学・早稲田大学・関西学院大学・日本大学）との連絡協議の場が構築でき、それぞれのイベント手法の研修に繋がり、活動のノウハウが学べました。

ネットワーク形成

　「いわきフラウィーク」・「全国学生フラ・フェスティバル2016inいわき」の開催により市内各層（大倉幼稚園・小名浜第二小学校・老人介護施設　孔輪閣・平第二幼稚園）・大学生・高校生（いわき総合高校・平商業高校）の諸団体と協力して新たなネットワークの構築や情報の共有が図れた。

すかがわ地域交流促進プロジェクト実行委員会

活動地域	須賀川市
活動分野	社会教育、まちづくり、文化芸術スポーツ、子どもの健全育成、科学技術、経済活性化

実施団体概要

〒962-0844　福島県須賀川市東町 59-25
TEL 0248-76-2124　FAX 0248-76-2127
E-mail t_suzuki@sukagawacci.or.jp

事業目的・課題・背景

須賀川市の中心市街地には、平成19年にオープンした須賀川市総合福祉センターがあった。しかし、東日本大震災によりこのセンターも被害を受け、使用不可となった。かつてセンターには市役所機能の一部や社会福祉協議会に加えて、休憩所、イベントスペース、コンビニエンスストア、図書館、多目的室、乳幼児向けの遊び場などが入り市民に幅広く活用され、市街地の中心部において多くの交流を生んでいた。商店街に立ち並ぶ店舗の相次ぐ休業や閉店などもあり、震災以降人通りが少なくなりつつある中心市街地に、震災で失われたセンターに代わり、市民が交流するための拠点をもう一度整備する事で、再び多くの人を招き入れる事と、地元の多くの団体が連携して活動することで、地域活性化に向けた今後の取り組みへのスキルアップを目的として事業を行うものである。

主な活動実績

機械を動かそう　働く車大集合!!

地元建設業と連携し建設機械を貸し出しして頂き子ども達に触ってもらい定員数の方には試乗してもらった。

定員50名のところ100名程問合せがあり急遽、自由解放コーナーを設け対応した。そのおかげもあり会場が賑わい、当初の目的である建設業に触れ合ってもらうという目的を達成することが出来た。

日　　時：平成27年6月20日（土）
場　　所：ブルースタジアム（須賀川市）
参加者数：親子50組以上

主な活動実績

ミニ松明をつくろう

ミニ松明を作ろう

須賀川の歴史ある祭りの松明あかしにもっとたずさわって貰いたく企画した。本物の松明と同素材のミニ松明キットを制作しワークショップを行った。地元の方でも構造や作り方まで知っている方はなかなかいらっしゃらず、松明に触れあう良いきっかけになったと思う。来客60名。

日　　時：平成27年11月14日(土)
場　　所：グランシア須賀川横特設会場
参加者数：親子30組以上

チョコレートの香りのするボディークリームとリップスティックを作ろう!

地元の自然材ショップオーナーに講師としてお越し頂き、自然素材でアロマリップ・ボディークリームを作るワークショップを開催した。自然素材のみということで安心して使えるボディークリーム、リップスティックに親御さん達も喜んでいらっしゃった。定員15名のところ50名強の応募があり施設等のキャパシティーに悩まされた回でもあった。

日　　時：平成28年1月30日(土)
場　　所：地域交流館ボタン
参加者数：親子15組

事業の成果

人材育成

他団体と接して事業の準備を進める時点で専門知識が欲しいので前もって予習を行うことが習慣付いていた。

- 地元企業との連携で事業を行ったことによる地元技術の伝承･育成
- 生物の生態を知り、自然環境の問題や震災後の変化を確認した知識育成
- 地元の伝統行事に参加し､文化の伝承・育成
- 地元の歴史･文化を伝承し次世代に残すための育成
- 地元農業団体との連携による地元農業の現状と可能性の認識

ネットワーク形成

交流を通じて流行りや何に需要があるのかを話し合うことが出来た。またそのような場所を提供してもらえる機会を設けて頂くなど事業を通じてネットワーク形成ができた。

- 地元企業との連携
- 中心市街地商店街と広報連携
- 行政との広報及び講師紹介等の連携
- 他NPO団体との連携

NPO法人 災害復興支援ボランティアネット

活動地域	南相馬市
活動分野	まちづくり、環境保全、災害救援、地域安全、連絡助言援助、その他

実施団体概要

〒979-2124 福島県南相馬市小高区本町2-57
TEL 0244-26-8934 FAX 0244-26-8935
E-mail rrmatumoto@yahoo.co.jp
URL http://v-home.net

事業目的・課題・背景

事業目的

当団体に依頼する被災者は大部分が一人暮らしや高齢者で2反3反以上の草刈り、大木の伐採など自分達では到底出来ない。行政では対応できない部分をボランティアが行う必要がある。

課題

今年4月の帰還解除は避難者の動きが特に多くなる時期でもある。地域・集落の課題は山積しているが、それに応えるだけのボランティアの数は充足していない。

背景

東日本大震災後5年目に入るがまだ復興とは程遠い状況の地域も多い。南相馬市南部は「避難指示解除準備区域」が解除されるが仮設住宅・借り上げ住宅等遠方に住んでいる避難者・地方への移転希望の人たちは当団体に屋内の片づけや家具の処分、引越し手伝い等を電話や訪問等で依頼している。

主な活動実績

2015年10月・12月、2016年2月の活動記録です。毎日このような作業を軽トラック、2トン車、バックフォー、ウッドチッパーを使って行っていますが、連日頑張っても被災者からの依頼残数は100件以上もあります。

2015年10月31日(土)の活動

ボランティア参加者：総数55名

個人参加15名／リピーター（2回目以上の参加者）12名／初参加3名／団体参加4団体40名

活動件数：8件

- 木、竹の伐採2件
- 肥料倉庫解体
- パイプハウス解体
- 竹の伐採
- 伐採した竹の片付け
- 庭木の伐採
- ボラセンター整備

当日の理事長のコメント

「大分教職員組合第2陣6名は昨日の継続で、竹林の伐採。ウッドチッパー操作など2日目とあって手慣れた様子。何より懸案事項であった肥料倉庫2棟の解体は、本日、東京土建一般労働組合の土木の専門家17人

主な活動実績

が、重機3台・アセチレンガスなどを東京から持ち込み、本格的な解体を行って下さり、被災者様にも大変感謝して頂きました。毎週末参加のチーム援人さんは得意のパイプハウス解体に、冬空のもと汗を流してくださいました。毎月一泊参加の練馬区職員労組のメンバーは津波被害で家屋流失跡地の屋敷林の伐採にチャレンジ、大変きれいな伐採に感心しきりでした。フリー参加の方々は、屋敷周りの巨木の伐採、またセンター資材置き場の除染が済みましたので、資機材の再配置・片付けに頑張ってくださいました。」

2015年12月28日(月)の活動

ボランティア参加者：総数16名

個人参加10名／初参加1名／リピーター(2回目以上の参加者)15名／
団体参加1団体6名

活動件数：4件

・杉の木伐採及び搬出　・竹林の伐採、チッパー掛け
・敷地内庭木の伐採　・敷地内に残っている木の伐採

2016年2月13日(土)の活動

ボランティア参加者：総数62名

個人参加18名／リピーター(2回目以上の参加者)18名／
団体参加4団体44名

活動件数：7件

・竹・杉の伐採　・屋外の瓦礫撤去　・ハウス等建物回りのゴミ、竹の片付け
・庭の木の剪定・伐採　・物置・車庫の解体　・敷地内の木の伐採　・屋敷回りの樹木伐採

事業の成果

人材育成

樹木伐採や草刈りの需要が多くなったので、朝礼で機材の取り扱いや手入れ、伐採の方法等の講習を行っている。また技術を身に付けた人材は関東圏でチェンソーの講習会を年2回程開催し、ボランティアとして大きな役割を果たしている。ある介護職の女性は、復興の役に立ちたいと大型トラック免許を取得し毎月参加、ボランティアとしての活動を進めている。回数を重ねているリピーターの団体も沢山のリーダーが育ち、様々な案件をこなしている。本年は帰還解除となる日が近づき引越し、家の家財片付け・処分・清掃等女性が活動できる場が多くなり、経験を積んだ女性リーダーの活躍も心強い。

ネットワーク形成

被災地域住民から行政では対応できない相談が入ると、南相馬市役所、原町区・鹿島区役所から直接当団体にボランティア要請の連絡が入る。市や区から信頼される団体になろうと各々のボランティアが懸命に活動してきた結果だと感じる。多彩な仕事や人脈に通じている活動家の力も大きく、ボランティア募集のポスターを作成し、全国に発信しているボランティア、活動報告会の開催を企画した人々、民間企業人、OB、労働組合、高校・大学、各地商工会議所、宗教団体、個人、団体ボランティアの情報共有、近隣住民の温かい応援があったからこそ、ここまで活動が継続できたのだと思う。

NPOと民間企業による「協働」地域復興事業

一般社団法人 Bridge for Fukushima

活動地域	福島県内
活動分野	社会教育、まちづくり、観光振興、国際協力

実施団体概要

〒960-8061 福島県福島市五月町 2-22
TEL・FAX 024-503-9069
E-mail bamba@peace.ocn.ne.jp

事業目的・課題・背景

本事業は、復興課題解決に取組むNPOと企業のマッチングによって課題解決のプラットフォームを作ります。震災後、本県では300のNPOが設立されましたが、人材・資金等の不足から運営基盤が脆弱で組織強化が必要です。さらに、長期化し複雑になった復興課題に対して多様かつ専門的なアプローチが求められています。NPOと企業がお互いのリソースを用いて協働することで課題解決が加速します。この持続可能なプラットフォームを目指します。より協働を進めるため、NPOのニーズの明確化が求められています。企業と協働できるNPOを増やす試みとして、今年度はNPOの事業・組織課題解決支援に取り組みます。さらに、事業評価を取り入れた協働サポートによって効果的な協働事業を生み出します。

主な活動実績

①協働事業のコーディネーション

今年度は、2013年から継続的に行ってきている、「結の場」によって構築した企業側と県内のNPO等のネットワークを生かして、協働事業のマッチングのコーディネーションを行いました。

具体的には、

- NPOが企業のボランティアを2年間にわたり継続的に受いれまちおこしを協働する事業
- NPO等が既に実施している事業に、企業側が講師や商品提供という形で提供いただく事業
- 企業の持っている媒体（HPや広報誌）にNPOの活動を紹介いただく事業
- 会計や広報といった専門的な社員ボランティアが短期間でNPOに派遣される事業。

などが行われました。

主な活動実績

②NPO版「結の場」の開催

福島県内で活動するNPO等の持つ、組織課題や取り組んでいる社会課題を、企業さんと一緒に課題を分析し、一緒に解決策を考えるNPO版「結の場」を3回開催しました。(福島市での開催2回、東京での開催1回)

のべ15のNPO等、またのべ24の企業さんにご参加いただき、風評被害(PRの福島)、原子力災害による避難地域の帰還、避難者支援、若者の居場所作り、女性の働く環境つくり、などの課題について具体的なプロジェクト立案に向けた話し合いが行われました。

③事前学習会

協働を行うに当たり、東京の企業さんからは福島の現状が今一つ見えにくい、福島の企業さんからはNPOがどのような活動を行っているのかがわかりにくいとの声が多かったことから、結の場を開催する前に「福島の現状」や「NPO全体の活動」などを理解していただくための学習会を行いました。

事業の成果

人材育成

協働事業を行うためのマッチングは、幅広い知識とネットワークを構築することが求められるところ。本事業において弊団職員は事業を積み重ねたことで経験が知識となり、またマッチングのノウハウの蓄積が行われました。また団内でワークショップのファシリテーションのトレーニングを行い、人材育成に取り組みました。

ネットワーク形成

本事業において、企業側のネットワークの形成は最も重要なポイントで、既に都内の大手企業を中心に30社近いネットワーク、県内では15社ほどのネットワークを構築しました。またNPOと企業のネットワーキングに卓越した経験を持つ、東京都ボランティア・市民活動センターや福岡県NPO・ボランティアセンター、都内企業で行われているCSRやCSVの研究会等とのネットワークが構築されました。

子どもが自然と遊ぶ楽校ネット

活動地域	福島県内
活動分野	社会教育、環境保全、子どもの健全育成

実施団体概要

〒965-0871　福島県会津若松市栄町2-14
レオクラブガーデンスクエア5階
TEL 050-3351-5522　FAX 0242-85-6863
E-mail　nfo@kodomo-gakkounet.com
URL　http://www.kodomo-gakkounet.com/

事業目的・課題・背景

事業目的

放射能被害の影響により、外で遊ぶことができなかったふくしまの子どもたちが、学校外の学びの場で自然体験等を通じて他者との協調性や学びを身につけるために、NPO法人10団体（今年度2団体が追加）で構成する「子どもが自然と遊ぶ楽校ネット」が本事業を通じて10団体協働での「組織力の強化」、「公教育との連携」、「事業実施モニタリング」を行う事で、事業のプログラムの質と、子ども支援力の向上を図る。また、次年度以降協議会として事業が継続できるようなファンドレイズを行いながら、学校と民間教育の連携のもとに、一貫した子どもの支援の民間での体制をつくる事ができる。

課題・背景

- 震災後、公教育と連携した学校外の居場所の必要性が求められてきたが、震災から5年を経て、県外からの子ども支援が減少しており、子ども支援の量的減少や、質的な劣化が懸念される。
- 震災後の子ども同士の関係性の悪化に対して、公教育だけでこれらの課題に対応する事が不可能であるので、課題の情報共有も含めた連携した活動が欠かせない。
- 福島でも線量の低い場所があり、安心して遊べる場所、活動をつくりだし地域の中核となりながら、子ども支援のセンター的な役割を果たす場所が求められている。

主な活動実績

平成27年9月26日～27日ぽんた山元気楽校

会　　場：鮫川村　あぶくまエヌエスネット敷地内
参 加 者：19名
対　　象：福島県内の小学1～小学6年生
参 加 費：参加料金　宿泊2000円/人
事業内容：

福島県内在住の小学生を対象に、自然豊かな里山の環境での自由遊びや、ウォールクライミング、プロジェクトアドベンチャーなどの野外活動のほか、薪割り、火起こし、食事作り、家畜の世話などを協力して営む体験をとおして、原発事故の影響で外遊びが困難な子どもたちの心身のバランスを保つとともに、社会性、想像力、少しの我慢の力などの生き抜く力を育むもの。

事業の成果：

本事業は参加者の体力維持や体力増進に寄与したと考えられる。そのほか、友達同士で来ている参加者はもちろん、初めて知り合った参加者同士も、活動を通じて交流を深める様子が見られた。このことから、本活動は参加者のコミュニケーションや他者に自分を伝える力などの社会的な力を育む一助になったと思われる。また、太陽光パネルの作成は、手を動かし楽しみながら自然エネルギーのことを考えたり親しむ機会となった。

事業の成果

人材育成

定例会や人材育成研修を通して、NPO同士がもつお互いの優れたスキルを共有し、かつ学習する事を通じて、協議体としての対人支援の質を高める事はもちろん、各団体自体の本来事業の質も高める事につながった。

参画するボランティアがプログラムづくりや対人支援の研修を受けることで、スキルを持った主体的な担い手を増やす事で震災後の支援の継続性や持続性を保ち、結果として支援の質を高めることにつながった。

ネットワーク形成

多様な団体が連携する事で、それぞれの技能や知見、専門性を活かした子ども支援を行っていくことで支援対象者を拡大することができた。

協議体として事務局を一元化することで、広報や募集にかかる経費を下げ、事業効果を上げることが出来た。

人材やニーズの窓口及び出口の一元化、事業実施事務局の一元化により、これまでの事業の効率化・合理化・合目的化を図ることが出来た。

社会からの孤立を防ぐ生きがいコミュニティーサロン事業

特定非営利活動法人 シャローム

活動地域	福島市
活動分野	社会教育、まちづくり、文化芸術 スポーツ、災害救援、人権平和、 子どもの健全育成、情報化

実施団体概要

〒960-1241　福島県福島市松川町東原17-3
TEL 024-524-2230　FAX 024-525-8285
E-mail info@nposhalom.net
URL　http://nposhalom.net/

事業目的・課題・背景

バラバラに点在するコミュニティの孤立化を防ぐため「生きがい」づくりのためのサロン運営事業を行う。仮設住宅等で引きこもりになってしまう高齢者がおり、特に男性の引きこもりが多いという課題がある。有事の際や普段の生活の中でお互いに見守る役割を持つセーフティネットを構築する。その手段として、仮設住宅等に講師を派遣し、気軽に参加出来るパソコン講座を中心とした様々なサロン事業を開催する。その中で次世代のリーダー的人材の育成も目的としサロン運営を行う。

主な活動実績

パソコン教室を中心に流しそうめん、大学生との交流会、BBQ、クリスマス会、オリンピック選手との交流会など、様々な活動を行ってきた。

パソコン教室

平成27年7月1日～12月29日まで
飯舘村NTT大森住宅・旧明治小仮設住宅・UDセンター
旧松川小仮設住宅・国見町上野台大応急仮設住宅
松川第一仮設住宅・南相馬自治会にて
計125回開催　のべ1328名参加

主な活動実績

流しそうめん

平成27年8月8日
松川第一仮設住宅　参加者200名

東京の大学生との交流会

平成27年9月5日
UDセンター　参加者50名

BBQ

平成27年11月3日
UDセンター　参加者20名

事業の成果

人材育成

本事業を通し、当団体へインターンシップでくる学生やボランティアの若者が、飯舘村の現状などを理解し、交流することが出来、震災の現状を把握することが出来た。また、コミュニケーション能力を向上させるという点においても、団体スタッフの能力向上につながった。

ネットワーク形成

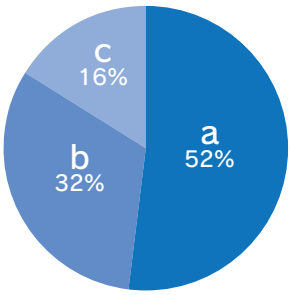
福島県よりご紹介いただいた、日本オリンピック委員会様との連携により、オリンピック選手の仮設住宅への慰安訪問を実現した。今後も、こういったマッチングの事業も重要な支援となることを理解できたことは、本事業の特筆すべき成果である。

平成27年度ふるさと・きずな維持・再生支援事業
アンケート調査結果

実施団体数28団体

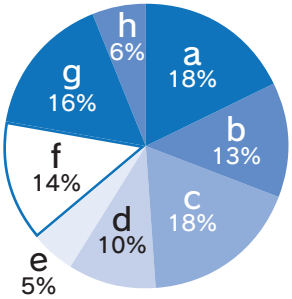
1 ふるさと・きずな維持・再生支援事業（以下「きずな事業」という）はどのような活動を展開したものですか？

a. 今までの活動の一部内容を発展させたもの	51.6%
b. 今までの活動の範囲を拡大したもの	32.3%
c. 新しい活動として取り組んだもの	16.1%
d. 他団体の既存活動を継承したもの	0.0%
e. その他	0.0%



2 きずな事業ではどのような主体と協働しましたか？（複数回答可）

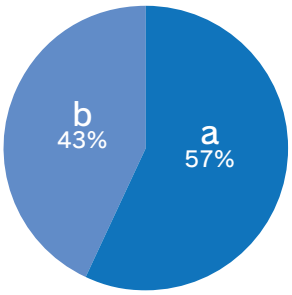
a. 行政	17.8%
b. NPO 法人	13.1%
c. 任意団体（ボランティア、地縁組織等）	17.8%
d. 公益法人（財団法人、社団法人等）	10.3%
e. 経済団体（商工会、商工会議所等）	5.6%
f. 企業	14.0%
g. 教育機関（大学等）	15.9%
h. その他	5.6%



【その他意見】
- 社会福祉協議会
- 請戸小学校教員父兄
- 地元町内
- 埼玉弁護士会、埼玉県青年司法書士協議会
- 地元農家、その他

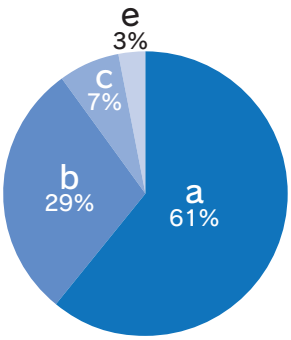
3 きずな事業では多様な主体と協働することでうまく役割分担はできましたか？

a. 各主体の特性を十分に生かすことができた	57.1%
b. 各主体の特性をある程度生かすことができた	42.9%
c. 各主体の特性をほとんど生かすことができなかった	0.0%
d. その他	0.0%



4 きずな事業では地域住民の理解は得られましたか？

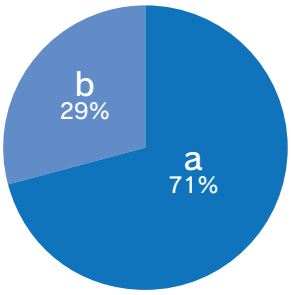
a. 十分に理解や共感が得られた、又は、多くの参加もあった	60.7%
b. ある程度の理解が得られた、又は、一部の参加もみられた	28.6%
c. 一定の理解が得られた	7.1%
d. あまり理解は得られなかった	0.0%
e. その他	3.6%



【その他意見】
・企業の社員のボランティアの理解が深まった

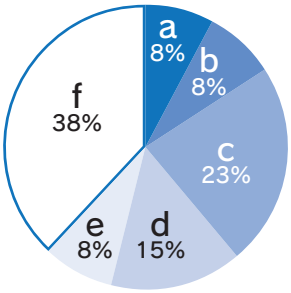
5 きずな事業の目的は達成されましたか？

a. 概ね目標を達成できた	71.4%
b. 目標の７～８割程度は達成できた	28.6%
c. 目標の半分程度は達成できた	0.0%
d. 目標の一部を達成できなかった	0.0%
e. その他	0.0%



6 きずな事業の目的が達成できなった理由は何ですか？

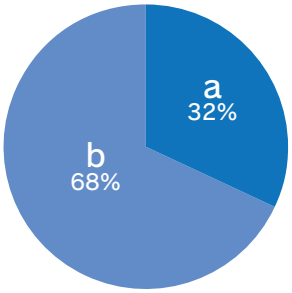
a. 地域のニーズに合致していなかった	7.7%
b. 関係機関の協力が得られなかった	7.7%
c. 事業期間が足りなかった	23.1%
d. 需要が大きくカバーしきれなかった	15.4%
e. 当初の事業計画、実施体制に無理があった	7.7%
f. その他	38.5%



【その他意見】
・概ね達成された（達成する予定）
・天候
・事業計画時に、他企業等のスケジュールまで把握できなかった

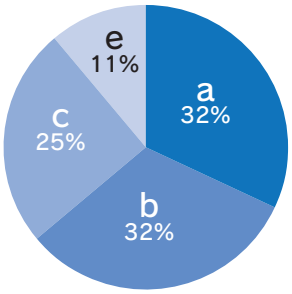
7 きずな事業により地域の課題解決やニーズへの対応ができましたか？

a. 十分に対応できた	32.1%
b. ある程度対応できた	67.9%
c. ほとんどつながらなかった	0.0%
d. その他	0.0%



8 きずな事業終了後、その取組については継続しますか？

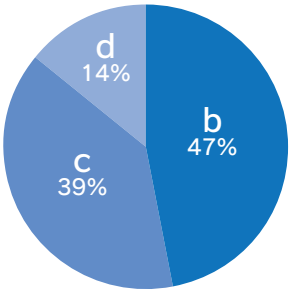
a. 事業を拡大して継続する	32.1%
b. 同様の取組を継続する	32.1%
c. 一部手法や内容を変更して継続する	25.0%
d. 継続しない	0.0%
e. その他	10.7%



【その他意見】
・活動資金が確保できれば継続したい
・補助金、助成金が獲得できたら継続も可能
・連携団体との協議次第

9 きずな事業の取組の継続について、資金調達の予定はどうですか？

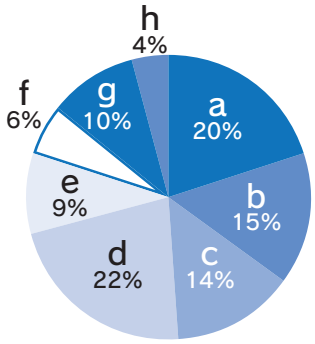
a. 必要な資金はほぼ調達可能である	0.0%
b. 必要な資金の一部は調達可能である	46.4%
c. 必要な資金の調達の目途は立っていない	39.3%
d. その他	14.3%



【その他意見】
・国、県等公的な助成金を活用
・寄附又は支援事業補助金が欲しい
・助成事業に応募するなどして調達する

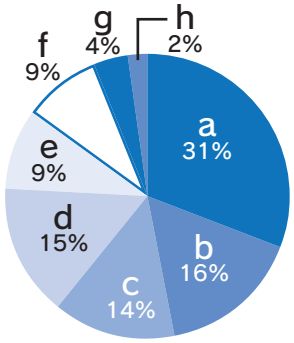
10 きずな事業の取組の継続･発展に必要なものは何ですか？(複数回答可)

a. 事業に協力してくれる人材の確保・育成	19.5%
b. 行政による側面支援	15.0%
c. 他の主体（地域住民、NPO、企業等）との協力・連携	14.2%
d. 補助金・助成金の充実	22.1%
e. 会費・寄付の増加	8.8%
f. 自主事業の拡大	6.2%
g. 地域資源の活用	9.7%
h. 専門的知見やノウハウの取得	4.4%
i. その他	0.0%



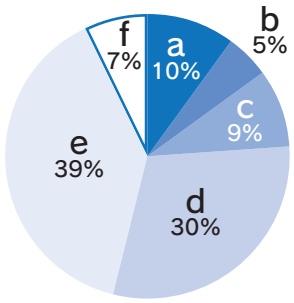
11 きずな事業を実施した成果は何ですか？(複数回答可)

a. 多様な主体とのネットワークができた	31.3%
b. 地域課題に取組人材が育った	16.3%
c. 専門的なノウハウ等が習得できた	13.8%
d. 効果的な事業立案・実施が可能となった	15.0%
e. 住民主体の活動につながった	8.8%
f. 地域資源を活用することができた	8.8%
g. 新たな起業や雇用の創出につながった	3.8%
h. その他	2.5%



12 きずな事業を実施後、団体組織として変化したことはありますか？(複数回答可)

a. 会員数が増えた	10.5%
b. 寄付が増えた	5.3%
c. スタッフが増えた	8.8%
d. 支援者が増えた	29.8%
e. 団体の知名度が高まった	38.6%
f. その他	7.0%



【その他意見】

・団体の中でのミッションへの理解度が高まった
・交流会への新規避難者参加が増えた
・組織としてきずなが深まった

13 きずな事業の実施において、特に苦労した点は何ですか？（自由記載）

◆ 自己負担分 20% の調達に苦労している。と同時に支援事業の継続性を考えると 1 年間（4 月～ 3 月）を通して活動できる様な行政のサポートが必要。

◆ 継続的な活動資金の確保。

◆ 要介護者は病気の人、医師による治療が最優先であり、医師と介護予防する側とのコミュニケーションをしっかりとることに苦労した。運動量はじめ、メッツ数がどこまでのプログラムが可能かが、課題になった。介護予防はあくまでも健常者が対象のため、健常者の線引き（除外基準）に苦労した。

◆ 活動範囲が広く移動などは大変であったが、その分、地域の方や社会福祉協議会の方と交流ができ、広いつながりが出来たので良かった。

◆ ・資金の調達として、助成金が 80%　自己資金 20%　事業終了時の支払いが 100% の時点で、助成金の概算払いが 80%で、全体予算の 64% であり自己資金が 36% 必要となる。自己資金の調達に苦労しました。
・全町避難の浪江町の住民としての活動拠点をどこにして良いのか思案されます。現在は、会の発祥の地（避難先）の桑折町を拠点としているが、住居を移した為打合せの回数が減り、電話・FAX・郵便での連絡調整で苦労しています。

◆ ・請戸小学校物語の絵本と紙芝居を通し、‘何を伝えたいか’をこちらの制作関係者の認識を一つにまとめること。
・事業遂行でのモチベーションの維持。

◆ 毎月、情報紙を発行しているが、被災当事者のインタビューに応じてくれる方が見当らなくなってきた。

◆ 関連事業として実施した「みんなでやっぺきれいな 6 国」の際、反対団体からの活動中止の申し入れや、抗議の電話やメールが多くあったが、浜通り地方の復興再生のため、何としても実施したいとの思いで開催しました。当日は約 1500 人の方々に参加頂き無事開催する事が出来ました。

◆ 年々帰還者が多くなり、各市町村の社会福祉協議会との連携が少しづつ取りづらい環境になってきている。食品提供のタイミングと量的な満足度の反応が聞きにくくなっており、個人の要望も食品だけでなく日用品のニーズが多くなってきている。

◆ 人材確保と活動費の捻出、企業への呼びかけにより多くのご賛同を得ることができました。特に苦労したのは、その活動に於いて熱意をもって呼びかけを行った点です。

◆ ・事業年度初期の立ち上がり時期の資金調達。
・年々減少する寄付を得るための対策と獲得活動の増加。
・累積赤字の解消策実施。
・ベテランスタッフの退職とスタッフスキルの伸び悩み。

◆ 事業開始から資金入金まで期間があり空白期間ができてしまうこと。

◆ 広報活動が十分にできていたとは言えなかった。事前打ち合わせ・日程調整・協力団体との連携を強める、など広報活動を強化していきたい。

◆ 一部の仮設住宅エリアにおいては、相当数入居者が減ったところがあり、昨年度までに比して各イベントの参加者を集めるのに苦労することがあった。

◆ きずな事業の実施は今回初めてでした。当初の予算の組み方は十分に検討したつもりでしたが、準備不足の面があり変更を余儀なくされるなど予算の施行に苦労しました。しかし今後につながる良い経験となりました。

◆ ・学校行事との日程調整に苦労した。
・限られた時間に内容が多すぎた。

◆ 実際の就労にどのようにつなげるか。フォローアップをどのように行うか。

◆ 絆バス応募者、セミナー参加者への個別連絡や対応。

◆ 今まで行っていた事業に加えて、新たな事業もあったので準備等に手間取った。また、新規イベントについては認知度が低く、募集も集まりにくいなどありました。

◆ 予算の執行事項で支出不可能な項目の出金があったため、資金の捻出に苦労しました。

◆ 新規事業の準備などは前例が無い為、多少は苦労したが、振り返ってみるとそこまでの苦労ではないと実感しています。

◆ 被災者の依頼をこなしていけるボランティア数が足りない。帰還に向けての移転等ニーズは増加し、震災の風化に伴う復興への関心が薄れてきていることが原因だと思う。

◆ ・各関係団体との連携の仕方。
・ニーズ調査。

◆ 人材確保。

14 復興支援･被災者支援活動において、現在、特に課題となっていることは何ですか？（自由記載）

◆ 仮設住宅から団地型災害公営住宅に移動した人は、孤立･孤独死への危険性が高まっており、お茶会等を通した団地内のコミュニティの構築が急務となってきている。戸建て災害公営住宅では、移住した住民同士のコミュニティと地元に住んでいた住民とのコミュニティの一体感の醸成が急がれる。他方仮設住宅内では、子供との不仲や身寄りが少ない等の理由と経済的な事情が重なり、生活再建への展望が見通せない高齢者が目立つ様になってきておりフォローが必要である。

◆ ・活動資金の確保。
・支援ニーズの多様化への対応（世帯別／個別支援が必要）。
・継続的な支援体制の維持。

◆ 要介護者・支援者の急増は、大きな課題として継続している。

◆ 仮設住宅に高齢者が一人暮らしをされていたり、地元に戻っても高齢者のみの暮らしをされている方が多く、不安や孤独を抱えている現状に接した。

◆ 3.11 以後５年目となり、震災・原発事故を語りたくない、思い出したくないとの想いを抱いている方と、忘れてはいけない、忘れる事が出来ない、想いの中で、今回の原発事故を人的災害として後世に伝えていく活動のむずかしさを、痛切に感じています。中には、福島の復興の妨げになるという考えの方もいるようで残念でなりません。しかし何があっても風化させてはいけないとの思いです。

◆ 災害が過去のものとなってきたこと。災害後５年経過したが、首都圏では災害が忘れられ始めている。この対策として、この災害を教育の場で子ども達に語り伝える事が必要。

◆ イベントにおいては、被災者と支援者の区別化が難しくなってきている。むしろ、市民に向けて「理解と関心」を呼びかけた方が良いのではと思うこともある。地域ごとに支援団体が交流企画等を開催、その内容を情報交換会、情報紙の編集･発行を通して一元化してきたが、当団体あるいは支援団体主催の交流企画の参加者が固定化してきている。震災から５年近く経過し、個別化、潜在化する課題にどう対応できるか。難しい状況になっている。

◆ 震災から５年が経過し、震災の記憶の風化と共に支援が縮小してしまうこと。

◆「帰還したいが、子供の学校問題があり迷っている」「住宅問題で、地元より好意的な条件で延長したい」「収入面（奥さんの雇用面が厳しい）」「一時帰還しても子供の将来のため、母と子供が米沢に戻る」等の避難者が個々に抱える問題を解決すること。

◆ ストレスを抱えていて、傾聴を必要としておられる方々が多く、もっと多くの団体から傾聴と心のケアを目的とするような、取り組みがなされるようになるといいのですが。

◆ 日々の生活に密着したなかでの被災者支援活動は、一過性のイベント事業とは異なり、４月の年度始まりから一年を通しての地道な継続性が要求される。また質の高い信頼関係を築くためには、短期ボランティアにも増して常駐スタッフの通年確保が必要である。被災者の方々の更なる要望や必要に応えるにも、人件費を始めとする運営経費の自己調達比率が高まり、また長期活動によるこれまでの累積赤字が重くのしかかっている。各活動の現実性を考慮して一年度を通して活動対象となる補助制度を期待します。

◆・区域外避難者の生活苦（生活費・メンタル面）への支援。
・長期間の孤立した避難生活からくる高齢避難者の痴呆、持病の悪化にいち早く気付き、成年後見制度や社会資源につなぐなどのフォローアップをすることなど。

◆震災から５年経過し、補助金・助成金の支援団体が減少し活動が難しくなってきている。

◆弱者救済となる活動では、人的コストを回収するだけの利益を確保することは困難であり、助成金･補助金に頼らざるを得ない。それが打ち切りになると、活動継続の目途が立たない。

◆まだ一部ではあるが福島県外の被災者との取り組みは進みつつありますが、福島市以外の福島県内市町村の被災者との取り組みはまだまだこれからです。福島県内での活動にも今後広げていきたいと思っております。

◆県外からの支援ではなく地元資源を活用した支援活動に力を入れていけないものか。

◆自主避難者に対する応急仮設住宅の供与期間終了が平成27年６月に福島県から示され、避難継続希望している避難者はその経済的不足分をどのように補っていくかで日々苦悩している。月に３～５万円分の収入を得られるような就労支援が急務である。

◆・避難者の方々の今後の生活再建にかかる自己決定のプロセスをどのようにサポートすればいいか。支援団体としては避難者、行政との間の中立の位置で避難者のための支援を考え、実施していくことが必要。
・首都圏における震災体験の記憶の風化。（身近に県外避難者がいることも知らない）

◆震災後、津波被災のあったこの地域は、もともとあった過疎化がスピードアップして進みました。空き家問題に加え、空き巣問題など課題は多く残っています。

◆新しいコミュニティの創出・継続・拡大。

◆風評被害がまだ続いている実感があります。県外からの集客を目指していますが、県外の若者の参加がまだ少数です。イベントの企画を改善して他県からの参加を増やしたいと考えています。

◆これから福島を担っていって欲しい若者層の地元離れ。

◆依頼者（被災者）からの多くのニーズは草刈り、家財の片付け、パイプハウスの解体、撤去、瓦礫掘り出し等で、その後のごみの処分や除染作業者等との関連は行政との連携もあり活動の進め方が難しい。

◆・ニーズ調査。
・資金調達、ファンドレイズ。
・生活困窮者への視線。
・継続して事業に携わる人材の育成。

◆安定した活動資金の調達。

成果報告交流会

平成 27 年度

ふるさと・きずな維持・再生支援事業

成果報告交流会

開催日時　平成 28 年 3 月 9 日（水）

会　場　杉妻会館　4 階洋大会議室（牡丹）
福島県福島市杉妻 3 － 45

目　的　東日本大震災・原子力災害からの復興支援、被災者支援等を行う NPO 法人等の取組を支援することにより、高い運営力を有する NPO 法人等を育成し、もって復興や被災者支援の継続的な取組の促進を通して、本県のきずなの維持・再生を図るものです。

プログラム

13：00 ～ 13：35	開会、挨拶
13：35 ～ 14：47	団体発表（1）
14：57 ～ 16：05	団体発表（2）
16：05 ～ 16：40	交流会
16：40 ～ 17：10	平成 28 年度 NPO 関連事業の説明
17：10	閉会

発表団体
特定非営利活動法人つながっぺ南相馬
東日本大震災・山梨県内避難者と支援者を結ぶ会
認定特定非営利活動法人パンダハウスを育てる会
浪江まち物語つたえ隊
NPO 法人団塊のノーブレス・オブリージュ
特定非営利活動法人ハッピーロードネット
一般社団法人 Bridge for Fukushima
特定非営利活動法人 NPO ほうらい
特定非営利活動法人フードバンク山形
特定非営利活動法人 Global Mission Japan
震災支援ネットワーク埼玉
いいたてまでいの会
特定非営利活動法人シニア人財倶楽部
特定非営利活動法人プロジェクト FUKUSHIMA
「うたと演奏のキズナプロジェクト実行委員会」
山形避難者母の会
特定非営利活動法人医療ネットワーク支援センター
NPO 法人中之作プロジェクト
特定非営利活動法人コーチズふくしま
特定非営利活動法人野馬土
特定非営利活動法人フラガールズ甲子園
すかがわ地域交流促進プロジェクト実行委員会
NPO 法人災害復興支援ボランティアネット
子どもが自然と遊ぶ楽校ネット
特定非営利活動法人シャローム

平成27年度
ふるさと・きずな維持・再生支援事業
成果報告交流会

「ふるさと・きずな維持・再生支援事業」により実施された復興支援・被災者支援等の活動について紹介します。

「復興の礎はいまここに、一歩、一歩。」

平成27年度 ふるさと・きずな維持・再生支援事業

成果報告交流会

平成28年度のNPO関連事業の説明もあります！

参加無料

どなたでも参加できます

平成28年 3月9日(水)

プログラム		
	13:30～13:35	開会(挨拶 等)
	13:35～16:10	発表(成果報告、質疑応答)
	16:10～16:40	交流会(参加者交流、名刺交換 等)
	16:40～17:10	来年度のNPO関連事業の説明
	17:10	閉会

※会場内に各団体の活動紹介のパネルを展示します。
※プログラムの内容・時間は予告なく変更になる場合があります。

13:30～17:10
13:00より受付

杉妻会館

4階　洋大会議室(牡丹)

福島県福島市杉妻町3-45
TEL.024-523-5161(代)

- 福島駅から徒歩10分
- 市内循環バス「大町」下車、徒歩5分
- 東北自動車道「福島西I.C」から車で約10分

申込方法　電話・FAX、またはHPの入力フォームより事前にお申し込みください。

※詳しくは裏面をご覧ください。

今年度採択団体(28団体)

特定非営利活動法人つながっぺ南相馬／東日本大震災・山梨県内避難者と支援者を結ぶ会／特定非営利活動法人NPOほうらい／認定特定非営利活動法人パンダハウスを育てる会／浪江まち物語つたえ隊／NPO法人団塊のノーブレス・オブリージュ／特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ／特定非営利活動法人ハッピーロードネット／特定非営利活動法人フードバンク山形／特定非営利活動法人おぢや元気プロジェクト／特定非営利活動法人GlobalMissionJapan／震災支援ネットワーク埼玉／いいたてまでいの会／特定非営利活動法人シニア人財倶楽部／特定非営利活動法人プロジェクトFUKUSHIMA／「うたと演奏のキズナプロジェクト実行委員会」／山形避難者母の会／特定非営利活動法人医療ネットワーク支援センター／特定非営利活動法人浮船の里／NPO法人中之作プロジェクト／特定非営利活動法人コーチズふくしま／特定非営利活動法人野馬土／特定非営利活動法人フラガールズ甲子園／すかがわ地域交流促進プロジェクト実行委員会／NPO法人災害復興支援ボランティアネット／一般社団法人Bridge for Fukushima／子どもが自然と遊ぶ楽校ネット／特定非営利活動法人シャローム

※上記のなかで当日、悪天候等により報告できない団体がある場合もございます。

お問い合わせ先
ふくしま地域活動団体サポートセンター
〒960-8043 福島県福島市中町8番2号 福島県自治会館7階 TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741
E-mail kizuna@f-saposen.jp URL http://www.f-saposen.jp

主 催／**福島県**　事務局／ふくしま地域活動団体サポートセンター　運営受託／認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター

成果報告交流会写真

受付の様子

団体の発表を熱心に聴く参加者

団体発表の様子（1）

団体発表の様子（2）

ふるさと・きずな維持・再生支援事業運営委員と
内閣府 中尾昌弘氏

質疑応答の様子

団体発表の様子(3)

団体発表の様子(4)

交流会の様子(1)

交流会の様子(2)

交流会の様子(3)

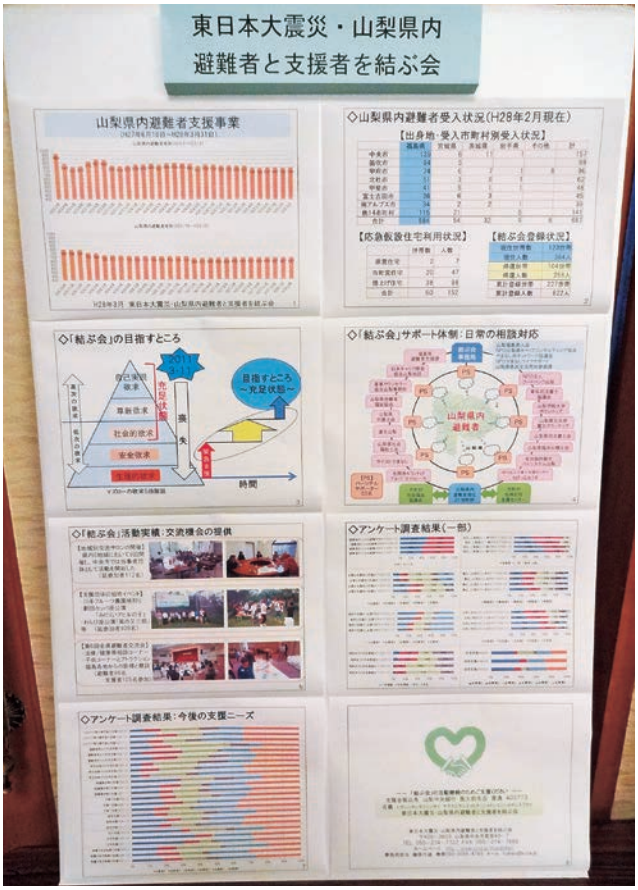
平成28年度NPO関連事業の説明の様子

特定非営利活動法人 つながっぺ南相馬

仮設住宅でのコミュニティサロン活動

東日本大震災・山梨県内避難者と支援者を結ぶ会

山梨県内避難者支援事業

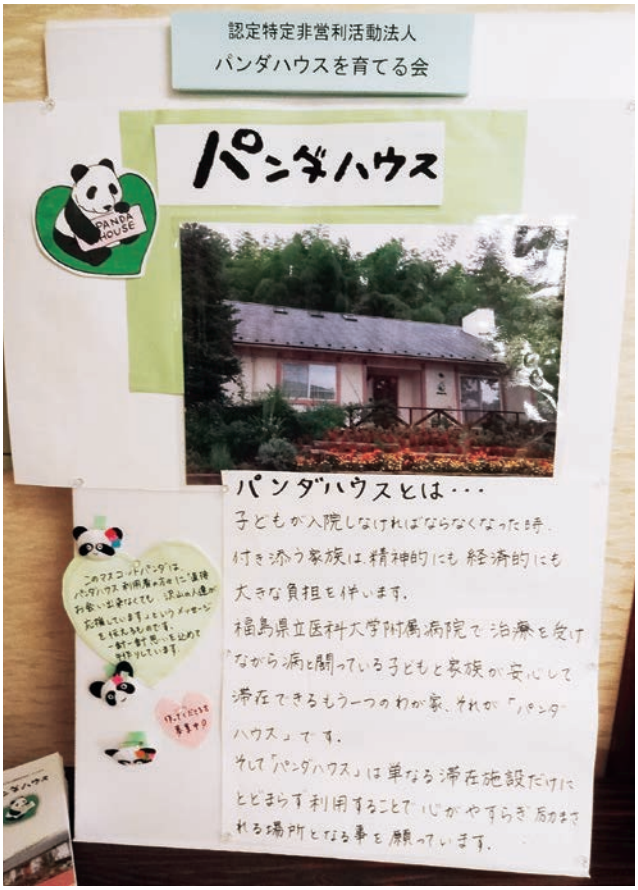


特定非営利活動法人 NPO ほうらい

コミュニティによる認知症･生活習慣病（糖尿病）
発症予防・進展抑制プロジェクト

認定特定非営利活動法人
パンダハウスを育てる会

共に触れ合い福島で生きる
～手作り品から生まれるきずな～



浪江まち物語つたえ隊

浪江まち物語
紙芝居およびアニメーション化事業

NPO法人
団塊のノーブレス・オブリージュ

請戸小学校津波避難物語の制作と広報支援事業

特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

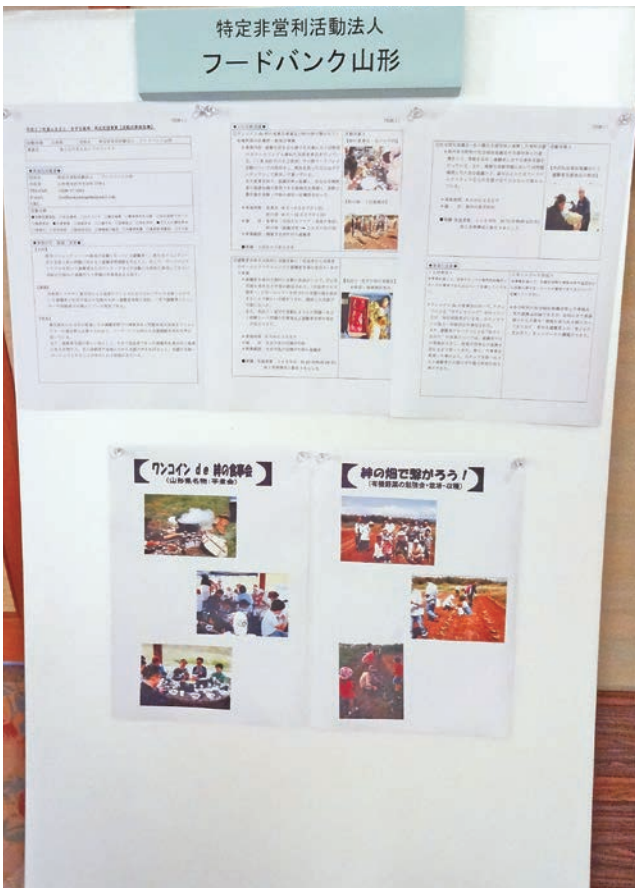
福島への思いを大事に、千葉での暮らしを支えるプロジェクト 2015

特定非営利活動法人 ハッピーロードネット

ふくしま浜街道・ふるさと再生ネットワーク形成事業

特定非営利活動法人 フードバンク山形

食と心の支えあいプロジェクト



特定非営利活動法人
おぢや元気プロジェクト

「心の駅」孤立防止と心のケア事業

特定非営利活動法人
Global Mission Japan

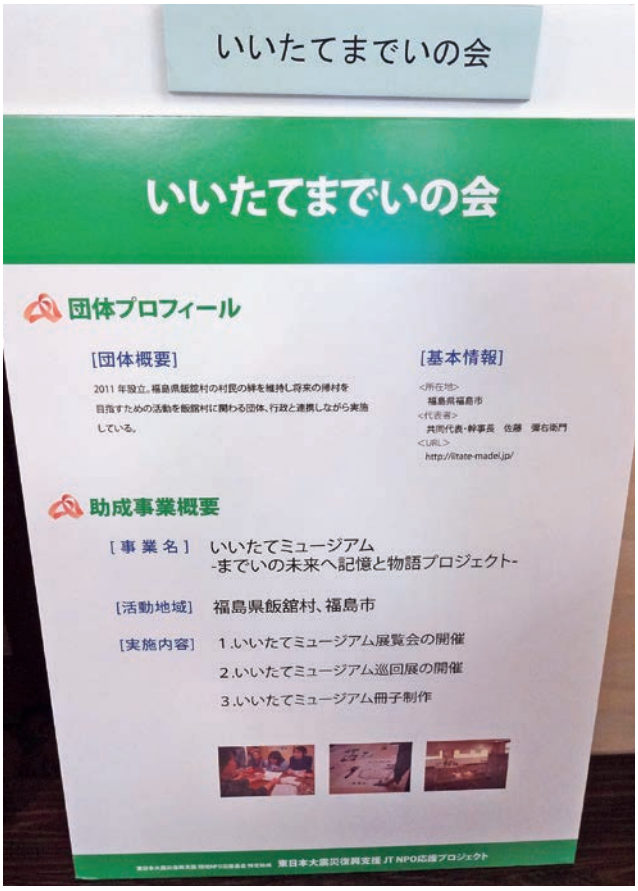
「ふくしまと世界の架け橋」
総合ボランティアセンターの運営

震災支援ネットワーク埼玉

専門家および地域行政との連携により、
長期避難者の生活再建を支援する事業

いいたてまでいの会

いいたてミュージアム
―までいの未来へ記憶と物語プロジェクト―2015



特定非営利活動法人 シニア人財倶楽部

学び・体験・交流による被災者の
生きがいづくり事業

特定非営利活動法人
プロジェクト FUKUSHIMA

プロジェクト FUKUSHIMA ！の活動

「うたと演奏のキズナプロジェクト実行委員会」

うたと演奏のキズナプロジェクト

山形避難者母の会

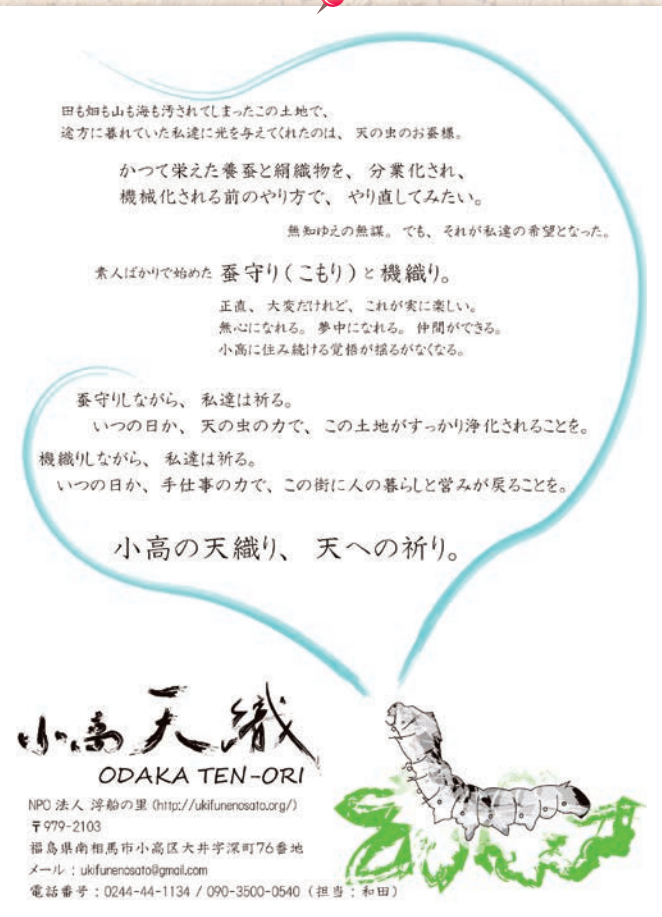
避難者向け女性人材バンクネットワーク形成と講師養成講座の開設

特定非営利活動法人
医療ネットワーク支援センター

「県外避難者の健康と生活支援および支援者の活動強化事業」

特定非営利活動法人 浮船の里

小高区住民の絆コミュニティ構築事業



NPO 法人 中之作プロジェクト

中之作地域　町並み保存活動

特定非営利活動法人 コーチズふくしま

仮設住宅高齢者住民、並びに地元高齢者住民に対するボランティア介護予防体操教室の実施事業

特定非営利活動法人 野馬土

6 号線の既設フリースペース（カフェ野馬土）を利用した地域活性化事業

特定非営利活動法人 フラガールズ甲子園

フラガールのふるさといわき推進事業
第１弾「いわきフラウィーク」
第２弾「全国学生フラフェスティバル 2016 in いわき」

すかがわ地域交流促進 プロジェクト実行委員会

すかがわ地域交流促進プロジェクト

NPO法人
災害復興支援ボランティアネット

南相馬市の未整備地域の環境整備と帰還者及び復興住宅への移転支援事業

一般社団法人 Bridge for Fukushima

NPO と民間企業による「協働」地域復興事業

子どもが自然と遊ぶ楽校ネット

子ども支援団体組織力強化を通じた野外活動
プロジェクト

特定非営利活動法人 シャローム

社会からの孤立を防ぐ生きがい
コミュニティサロン事業

平成27年度
ふるさと・きずな維持・再生支援事業
活動成果報告書

平成28年3月31日発行

発　　行　福島県企画調整部文化スポーツ局 文化振興課
〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16（県庁西庁舎11階）
電話 024-521-7179　FAX 024-521-5677

運営受託　認定特定非営利活動法人 ふくしまNPOネットワークセンター

事 務 局　ふくしま地域活動団体サポートセンター
〒960-8043 福島県福島市中町8-2 福島県自治会館7階
電話 024-521-7333　FAX 024-521-2741